令和３年度

（２０２１年度）

社会福祉法人　東蒲原福祉会

事　業　報　告　書

東　蒲　の　里

東蒲の里 みかわ園

ど　ん　ぐ　り

と　こ　な　み

目　　次

Ⅰ　令和３年度社会福祉法人東蒲原福祉会

法人事務局　事業報告

		頁
１．	入職・離職状況	１
２．	人員構成	１
３．	法人委員会開催状況	
３－１．	組織強化チーム	２
３－２．	サービス管理向上チーム	３
３－３．	スキルアップチーム	４
４．	東蒲原福祉会研修報告	５

1　入職・離職状況

1．令和３年度入職・離職状況（常勤８時間職員対象）

名称	法人全体		法人本部		東蒲の里（とこなみ含む）		みかわ園		どんぐり	
職員数（4月1日）	122 人		2 人		47 人		39 人		34 人	
	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職
4 月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5 月	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0
6 月	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
7 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 月	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0
9 月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
10 月	1	2	0	0	1	0	0	1	0	1
11 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12 月	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
1 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 月	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
3 月	0	3	0	0	0	2	0	1	0	0
合計	6	10	1	0	2	4	0	4	3	2
入職率	4.92%		50.00%		4.26%		0.00%		8.82%	
離職率	8.20%		0.00%		8.51%		10.25%		5.88%	

※　令和２年度の法人全体の入職率 8.87%（11 人）、離職率 8.87%（11 人）

【計算式】

入職率＝増加労働者数÷年初の全労働者数×100

離職率＝減少労働者数÷年初の全労働者数×100

【参　考】

令和２年度の介護業界全国平均離職率 14.9%

2　人員構成

1．令和３年度事業所別・雇用形態別職員数（令和４年３月 31 日現在）

雇用形態	法人全体	法人本部	東蒲の里	みかわ園	どんぐり
職員	120 人	3 人	46 人	37 人	34 人
臨時的採用職員	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
パート職員	50 人	3 人	19 人	16 人	12 人
シニア職員	12 人	0 人	1 人	5 人	6 人
登録ヘルパー	10 人	0 人	0 人	0 人	10 人
合計	192 人	6 人	66 人	58 人	62 人

３－１　組織強化チーム

１．委員会開催状況

開催日	協議事項
6 月 21 日 （ﾜｰｷﾝｸﾞ）	○令和３年度の活動内容について ・組織の業務効率化と連携強化について ・人事考課制度について ・開催方法について
7 月 27 日 （ﾜｰｷﾝｸﾞ）	○組織の業務効率化と連携強化について ・ICT の活用による業務効率化、連携強化について ・緊急連絡網の連絡手段について
12 月 22 日 （ﾜｰｷﾝｸﾞ）	○人事考課制度の職員面接について ・職員面接による係長及び職員の負担軽減のため、人事考課制度における職員面接の期間を１ヶ月から２ヶ月に変更 ・法人の取り組みにおける ICT の活用状況について

２．結果及び課題

（１）人事考課制度について

・令和３年度より、人事考課制度における職員面接の実施期間を２ヶ月に変更したことにより、新型コロナ感染症の対応などでスケジュールが組みにくい状況下でも、職員面接を実施することができた。
今後も人事考課制度においてもＩＣＴの活用により、効率化が図れるよう検討を行う。

（２）業務効率化と連携強化について

・今年度は、法人本部の取り組みによりＩＣＴを活用した業務の効率化が推進された。
組織強化チームとしては、これをベースとして業務の効率化や連携強化について検討を継続する必要がある

３－２　サービス管理向上チーム

１．委員会開催状況

開催日	協議事項
6 月 18 日 (ﾜｰｷﾝｸﾞ)	○令和３年度事業取り組み検討 ・令和３年度事業計画
8 月 27 日 (ﾜｰｷﾝｸﾞ)	○各施設における令和３年度ＱＣサークル活動の進捗状況（１回目） ・東蒲の里：テーマ「歩行器の管理方法について」 ・東蒲の里みかわ園、特養：テーマ「車椅子の清掃について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「ヒヤリはっと・事故報告の提出について」
12 月 15 日 (ﾜｰｷﾝｸﾞ)	○各施設における令和３年度ＱＣサークル活動の進捗状況（２回目） ・日程の調整が付かず、書面で各施設の進捗状況を確認した。 ・東蒲の里：テーマ「歩行器の管理方法について」 ・東蒲の里みかわ園、特養：テーマ「車椅子の清掃について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「ヒヤリはっと・事故報告の提出について」

２．結果及び課題

（１）各施設におけるＱＣ活動について

・現状分析、実施方法の分析を行うことで課題が明確になり、問題の解決や効果的な改善策を作成することができた。

（２）今後の取り組みについて

・各業務におけるマニュアルや手順書の見直しが定期的かつ効果的に見直しがされているか、各施設での取り組み状況をＱＣ手法に照らし合わせて検証していく。

３－３　スキルアップチーム

１．委員会開催状況

開催日	協議事項等
4 月 20 日	○令和３年度研修内容について ・今年度の研修のやり方について ・同業種・異業種研修の代替え研修について
5 月 25 日	○令和３年度の研修について ・令和３年度研修別対象者一覧について ・指導力向上研修等について
6 月 22 日	○オンライン研修の説明について ・株式会社メディパスアカデミーからオンライン研修について説明
11 月 30 日	○指導力向上研修について ○新たな研修について
12 月 16 日	○指導力向上研修について ○5 年目研修について

２．結果及び課題

（１）令和３年度の研修について

・新型コロナウィルス感染症の影響により、令和３年度は予定通りの研修実施できず、特に指導力向上研修、５年目振り返り研修等の集合研修が実施できなかった。

・集合での研修ができないことから、オンライン研修（ｚｏｏｍ）を検討したが、難しい部分もあり実施できなかった。

（２）新任職員研修

・新任職員研修については、実技を伴う研修以外は、ｚｏｏｍを使用した研修を取り入れ分散して研修が受けられるよう体制を整えた。５月、９月、１１月に実施した。

（３）今後の取り組み

・ケアセンターどんぐりの朝日より継続された職員に対しての研修について、３年目が終了した。

・コロナウイルス感染による感染が続く中、集合研修が難しい状況となっている。今後も感染症防止対策をした上で､必要な研修をどのように行っていくか検討を継続していく。

４　東蒲原福祉会研修報告

１．研修別内容

研修名	開催日	内容・講師	対象職員	参加者数
新任研修	年度中	東蒲原福祉会新任職員研修 講　師：東蒲原福祉会　職員	新任職員	６名

２．結果及び課題

（１）東蒲原福祉会研修体系に基づいた研修については、新任研修を除き新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。

（２）今後の取組について

・就業時間を考慮した研修の日程や時間帯を検討し、感染症対策を行ったうえで、研修を計画し、多くの職員が研修に参加できるように計画したい。

Ⅱ　令和３年度社会福祉法人東蒲原福祉会

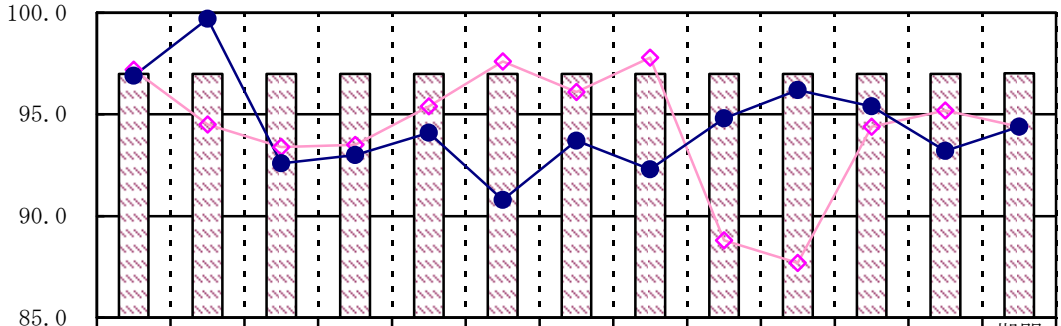
東蒲の里　事業報告

	頁
１．介護老人福祉施設（特　養）	６
２．短期入所生活介護事業（ショートステイ）	１０
３．通所介護事業（デイサービス）	１４
４．居宅介護支援事業	１８
５．東蒲の里研修報告	２２
６．東蒲の里ボランティア活動状況	２４
７．東蒲の里災害対策	２５
８．東蒲の里苦情受付・対応報告	２６
９．東蒲の里事故等発生状況報告	２７

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0%
令和2年度	97.2	94.5	93.4	93.5	95.4	97.6	96.1	97.8	88.8	87.7	94.4	95.2	94.4%
令和3年度	96.9	99.7	92.6	93.0	94.1	90.8	93.7	92.3	94.8	96.2	95.4	93.2	94.4%

※稼働率について

・介護老人福祉施設の 1 日定員（50 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 17,227 日であったことから

17,227 日　÷18,250 日〈50 人×365 日〉　＝0.9439　稼働率 94.4%

（延べ利用日数）　（定員）　（実稼働日数）

2. 要介護度別入所者数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	0	1	11	26	12	3.98
令和 3 年度	0	1	13	26	10	3.90

3. 要介護度状態の変化（令和 4 年 3 月 31 日にご利用されている方を対象としています。）

内　容	要介護
改　善	4 人
維　持	45 人
悪　化	1 人
合　計	50 人

4. 年間行事報告

開催日	実 施 行 事	内　　容
4月7日～ 4月12日	観 桜 会	・気分転換を兼ねて散歩をして桜を観賞した お茶とお菓子をお出しして、写真撮影を行った。
7月7日	七 夕 会	・ご利用者から願いを書いていただいた短冊をつけて、七夕飾りと一緒に写真撮影を行った。
9月10日	敬 老 会	・感染症予防のため会食は中止し、長寿の祝いとして記念品の贈呈、壇上での記念撮影を行った。
10月12日	秋 祭 り	・利用者と職員によるカラオケ大会を開催した。 ※感染症対策を行い実施した。
12月17日	クリスマス会	・利用者と職員によるカラオケ大会を開催した。 ※感染症対策を行い実施した。 ・ケーキとクリスマスプレゼントを贈呈し、記念撮影を行った。
1月1日 1月2日 1月12日	お正月 お楽しみ会	・お楽しみ会を実施した。 正月料理(お汁粉、甘酒)を用意し、歌を一緒にうたって正月の雰囲気を味わっていただいた。 ・団子刺しの行事を行った。 ご利用者には、団子刺しの枝を整える作業や飾り付けをしていただいた。
2月3日	節　　分	・鬼に扮した職員が各居室や食堂を回り、節分の行事を行った。
3月3日	ひ な 祭	・ひな飾りの前でご利用者の写真撮影を行った。 ひな祭りの雰囲気を楽しんでもらえるよう、ひな祭り用のお菓子を皆さんに食べていただいた

5. 事業報告(総括)

感染症対応を強化するため、施設内、地域における発生状況に応じた対応策のマニュアルを見直します。	
取り組み事項	① ご利用者がソーシャルディスタンスを保てるよう、パーテーションを設置します。 ② 日頃からの標準的予防策を徹底し、更に施設内、地域において感染症が発生した際におけるマニュアルの見直しを行います。
実績	① 飛沫感染予防として食堂や談話コーナーの座席の配置を見直し、パーテーションを設置した。 ② 標準的予防策については、習慣化された。 コロナウィルス感染症発生時に備え、ゾーニングの検討、対応の検討を行った。
課題と今後の取組	・ 今年度の振り返りを行い、事業継続計画(BCP)に反映していきます。

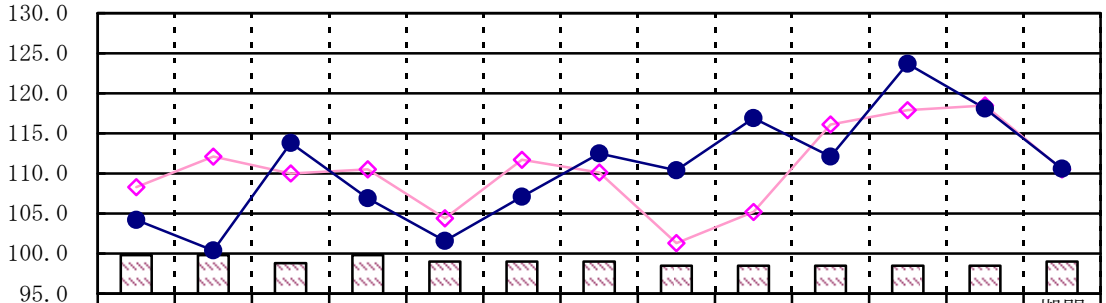
自立支援に向けたケアの充実を図ります。	
取組事項	① ご利用者の活動性を高めるため、個々のご利用者または小さいグループで行うことができるリベロ介護を実践します。 ② 認知症ケアの充実のため、各種研修に参加します。 ③ 医療、栄養、機能訓練の専門職と連携を図ります。
実績	① 身体を動かすレクリエーションのメニューを作成し、日替わりで実施することができた。 ② 認知症実践者研修に介護職員が1名受講した。 ③ 多職種の係長やリーダーによる会議を定期的に開催した。 尿路感染症や誤嚥性肺炎の予防、排泄や姿勢保持に関するケア方法や連携についての見直しを行った。
課題と今後の取組	・ レクリエーションの種類を増やすことと、確実に実施できるよう、スケジュールを作成します。 ・ 尿路感染症や誤嚥性肺炎の予防のため、介護職や他職種も参加する事業所内研修を開催し、日常のケアの見直しを行う。

様々なケアにおいてＩＴやＩＣＴなどのテクノロジーや介護機器を活用します。	
取　組　事　項	① ご家族とのオンライン面会の体制を見直します。 ② 介護報酬改定に対応するため、LIFE（科学的介護情報システム）の導入を図るとともに、各種計画書におけるアセスメントの作成時にもこれを活用します。
実　　績	① 令和2年度から実施したオンライン面会の対応可能な曜日と時間帯を増やした。 ② 段階的にLIFEの説明を行い、全職員が携わる体制を作った。
課題と今後の取組	・ ご利用中の様子の情報発信について、オンライン面会だけでなく、フェイスブックも活用できるように進めます。 ・ 今年度も継続してLIFEの説明を行い、更なる理解を進めます。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	99.8	99.8	98.8	99.8	99.0	99.0	99.0	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	99.0%
令和2年度	108.3	112.1	110.0	110.5	104.4	111.7	110.1	101.3	105.2	116.1	117.9	118.5	110.5%
令和3年度	104.2	100.4	113.8	106.9	101.6	107.1	112.5	110.4	116.9	112.1	123.7	118.1	110.6%

※稼働率について

・短期入所の 1 日定員(8 人)を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1 年間の延べ利用日数が 3,239 日であったことから

3,239 日 ÷ 2,920 日〈8 人 × 365 日〉 ＝ 1.109 稼働率 111.0%
（延べ利用日数） （定員）（実稼働日数）

※稼働率が 100%を超えている理由について

・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が 100%を超えている状況です。

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	10	74	0	760	624	257	758	746	3,229 日
令和 3 年度	0	60	0	670	512	673	818	506	3,239 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	25	23	25	25	30	28	32	36	39	34	33	38	30 人
延べ利用日数	250	249	273	265	263	257	279	265	290	278	277	293	269 日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和２年度	1.00	4.36 日	3.01	10.90 日
令和３年度	1.00	3.33 日	2.89	9.29 日

5. 要介護度状態の変化（令和４年３月にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	０人	１人
維 持	１人	34 人
悪 化	０人	２人
合 計	１人	37 人

※障害者利用は除く

6. 年間行事報告

園内行事については特養部門と合同で開催した。

7. 事業報告(総括)

ご利用者やご家族が安心して在宅生活が続けられるよう支援します。	
取　組　事　項	①多職種と連携し、利用中にご利用者一人ひとり身体機能を把握すると共に、法人内のデイサービスやホームヘルパーと連携を図りながら利用者の健康状態の安定、身体機能の向上に向けたケアを実践します。 ②認知症のご利用者に安心して過ごしていただけるよう、日常の生活動作、レクリエーションや趣味活動を通じて、その方に合わせた認知症ケアを実践します。また、ご家族や担当介護支援専門員に施設で行っているケア内容について情報提供します。 ③感染症予防のため標準的予防策を徹底します。また、ご利用者同士の感染を防ぐため、ソーシャルディスタンスを保てるよう感染症対策を実践します。
実　　績	① 法人内のサービス連携会議において、機能訓練や摂取状況の観察、医療的ケアの統一を図った。 ② 趣味活動などを通じて個別の症状に合わせたケアを提供することができた。 また、連携ノートや毎月、介護支援専門員へ提出する利用状況報告書を利用して情報の共有を図った。 ③ 感染症予防のため、特養と短期利用者の共有スペースを分離し、ソーシャルディスタンスが保てるように努めた。 また、利用者同士が対面になる場合はパーテーションを使用し、感染症予防に努めた。
課題と今後の取組	・ 多職種と連携を図りながら、利用者の健康状態の安定と身体機能の向上が図れるよう取り組みを行います。 また、趣味活動などを継続し認知機能の低下を予防できるよう努めます。

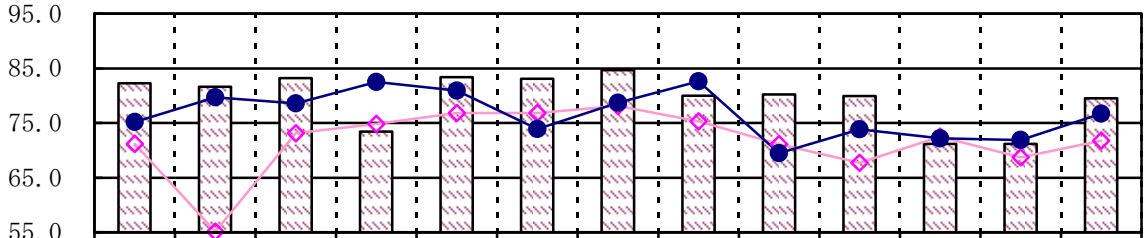
コロナ禍で施設職員と家族との交流が減少していることから、職員が家族に対して施設での取り組みなどの情報発信を行うことにより、ご家族との交流、施設の取り組みについて理解が深められるよう努めます。	
取　組　事　項	① 施設での取り組みや介護に関する情報、Ｑ＆Ａを取り入れたミニ通信の発行回数を増やし情報発信を行います。
実　　績	① ご利用者家族に向けに、介護に関する情報や施設での生活様子を映した写真、ご家族からの質問に対する回答を「ミニ通信」に載せて定期的に発行した。
課題と今後の取組	・ 施設での取り組みを紹介する「ミニ通信」の発行を継続します。 また、ご家族と面談する時間を作り、ご家族と意見交換を行います。

ＩＴやＩＣＴなどのテクノロジーや介護機器を活用します。	
取　組　事　項	① 日常的な業務での連携や他事業所との連携にＩＴ、ＩＣＴの活用に取り組みます。
実　　績	① Zoomにて定期的に合同カンファレンスを開催し、法人内のサービスを利用する方について、統一したケアを提供することができた。
課題と今後の取組	・ＩＣＴを活用し、サービス担当者会議の開催や情報共有ができるよう町内の居宅介護支援事務所へ働きかけます。

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	82.3	81.6	83.2	73.4	83.4	83.1	84.7	80.0	80.2	79.9	71.2	71.2	79.5%
令和2年度	71.2	55.1	73.1	74.8	76.8	76.8	78.1	75.3	71.1	67.7	72.5	68.7	71.8%
令和3年度	75.2	79.7	78.6	82.5	80.9	73.9	78.7	82.6	69.5	73.8	72.2	71.9	76.7%

※稼働率について

・通所介護事業の 1 日定員（25 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が 5,886 日であったことから

5,886 日 ÷ 7,675 日〈25 人 × 307 日〉 ＝0.769 稼働率 76.7%

（延べ利用日数） （定員） （実稼働日数）

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	288	523	403	1,642	1,050	743	465	468	5,582 日
令和 3 年度	283	418	211	1,768	1,088	1,315	546	257	5,886 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	67	64	67	69	67	66	67	66	67	62	60	74	66 人
延べ利用日数	489	518	511	557	526	426	492	537	469	443	433	485	491 日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
令和2年度	1.33	5.89 日	2.51	7.37 日
令和3年度	1.22	5.88 日	2.47	7.60 日

5. 要介護度状態の変化（令和4年3月にご利用されている方を対象としています）

内 容	要支援	要介護
改 善	2 人	3 人
維 持	5 人	32 人
悪 化	0 人	4 人
合 計	7 人	39 人

※基準該当 3 名、外部委託（きりん荘）12名・三川地区13名を除く

6. 年間行事報告

開催日	実 施 行 事	内　　容
9 月 20 日 ～24 日	敬 老 会	・1週間式典とプレゼント贈呈、 曜日毎に職員による余興を楽しんでいただいた。
12 月 20 日 ～24 日	忘 年 会	・日替わりで職員の余興を披露した。最終日にはご利用者と一緒に餅つきを行った。
1 月 13 日 ～15 日	団 子 さ し	・皆さんで団子を丸め、装飾品を飾って楽しまれた。
2 月 1 日 ～6 日	節　分	・職員が鬼に扮し、ご利用者に節分の雰囲気を楽しんでいただいた。

7. 事業報告（総括）

ご利用者が自分らしい在宅生活を継続できるよう、各職種の専門性を活かした自立支援に取り組みます。	
取　組　事　項	① 個々の生活環境や状況を把握し、在宅生活を続ける上で重要な生活動作の維持向上を目的とした個別機能訓練を行います。 ② 認知症ケアに関する専門研修の参加と事業所内での研修を行い、デイサービスでの認知症ケアの充実を図ります。 ③ 利用者の栄養状態や健康状態を把握し、異常の早期発見に努めます。利用者の変化や異常を早期に把握することで、ご家族及び医療機関、介護支援専門員と連携を図りながら支援に繋げます。 ④ ご利用者のニーズに基づいた「目的」を達成できるよう、担当ケアマネージャーと連携し適切なサービス提供に努めるとともに、各専門職による適切な相談支援に努めます。
実　　績	① 定期的に家庭環境と生活状況を確認しながら個別機能訓練を行った。 ② 認知症利用者への関わり方について、事業所内で検討会を行い、個別の症状に合わせたケアの見直しを行った。 ③ 健康状態の変化を確認した場合、連携ノートや関係機関へ連絡し情報共有を図った。また、在宅で看取り介護をされているご家庭には、ご利用者の状態変化時の対応方法についてその都度確認しながら支援を行った。 ④ ご利用者本人や生活状況の変化など担当ケアマネージャーと情報交換を行いながら必要な専門職による相談支援を行った。
課題と今後の取組	・ 在宅生活や在宅介護が安全に継続できるよう、リスク管理や予防的視点からの情報提供を行います。 ・ 在宅看取りや生活の質の向上、認知症対応など個々のニーズが多様化していきている為、個々の目的に合った支援が行えるよう、職種毎にスキルアップを図ります。

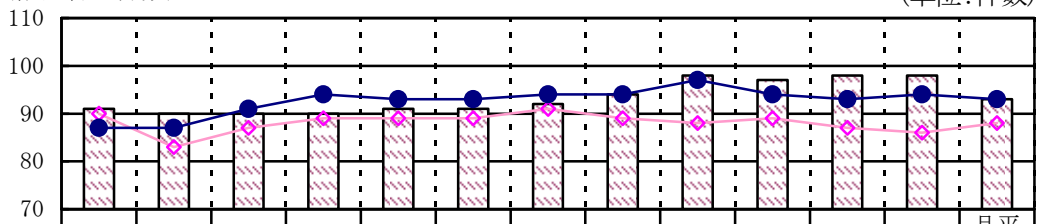
感染予防を強化します。	
取　組　事　項	① 標準的予防策を徹底します。 ② 感染予防のため標準的予防策を徹底します。また、ご利用者同士の感染を防ぐため、ソーシャルディスタンスを保てるよう、感染対策を実践します。
実　　績	① 手指消毒やマスクの着用等の標準的予防策を実施すると同時に、ご利用者の送迎時での体温や健康確認を行った。 ② ソーシャルディスタンスを保てるよう、パーテーションを設置した。また、レクリエーション時はご利用者同士が密にならないようメニューの変更を行った。
課題と今後の取組	・ 標準的予防策を継続して行います。また、町内の感染状況を常に把握し、状況に応じて予防策を検討し実践します。

ＩＴやＩＣＴを活用し業務の見直しを行います。	
取　組　事　項	① ＳＮＳで動画などを配信し、情報発信を行います。 ② 営業活動やご家族への情報発信を行う際に、活動内容など動画での紹介ができるようタブレットを活用します。 ③ ＩＴやＩＣＴの活用を進めるとともに、介護報酬改定に対応するため、ＬＩＦＥ（科学的介護情報システム）の導入を図ります。
実　　績	① 季節行事や活動内容など定期的にフェイスブックで情報発信を行った。 ② 訪問や電話での情報発信がメインとなり、タブレットを活用するまでには至らなかった。 ③ ＩＣＴを活用し、法人内の在宅サービスと合同カンファレンスを行うことで、統一したサービスの提供を行った。
課題と今後の取組	・ＩＴやＩＣＴを活用し業務の効率化や営業活動の見直しを図ります。

4 居 宅 介 護 支 援 事 業

1. 要介護者給付管理状況

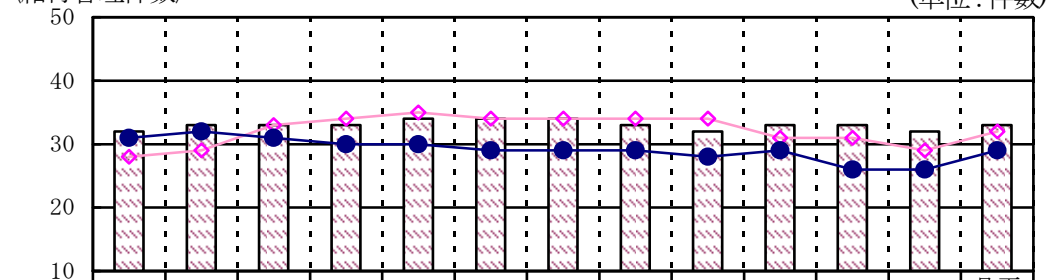
〈給付管理件数〉 (単位:件数)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
計画給付件数	91	90	90	90	91	91	92	94	98	97	98	98	93
令和2年度	90	83	87	89	89	89	91	89	88	89	87	86	88
令和3年度	87	87	91	94	93	93	94	94	97	94	93	94	93

2. 介護予防給付管理状況

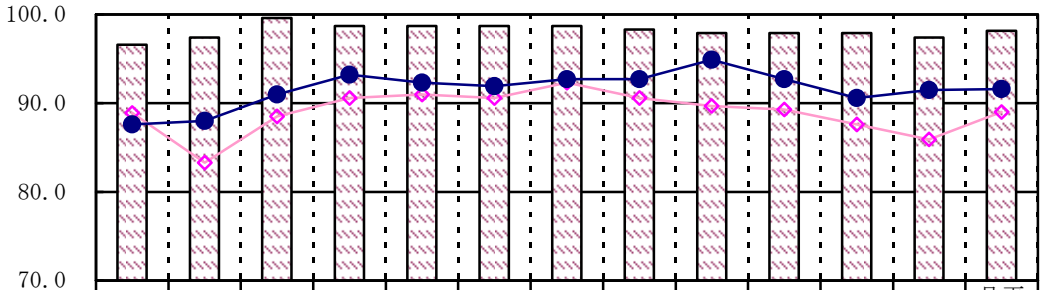
〈給付管理件数〉 (単位:件数)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
計画給付件数	32	33	33	33	34	34	34	33	32	33	33	32	33
令和2年度	28	29	33	34	35	34	34	34	34	31	31	29	32
令和3年度	31	32	31	30	30	29	29	29	28	29	26	26	29

3. 介護保険担当者状況

〈稼働率〉　　（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
計画稼働率	96.6	97.4	99.6	98.7	98.7	98.7	98.7	98.3	97.9	97.9	97.9	97.4	98.2%
令和2年度	88.9	83.3	88.5	90.6	91.0	90.6	92.3	90.6	89.7	89.3	87.6	85.9	89.0%
令和3年度	87.6	88.0	91.0	93.2	92.3	91.9	92.7	92.7	94.9	92.7	90.6	91.5	91.6%

※稼働率について

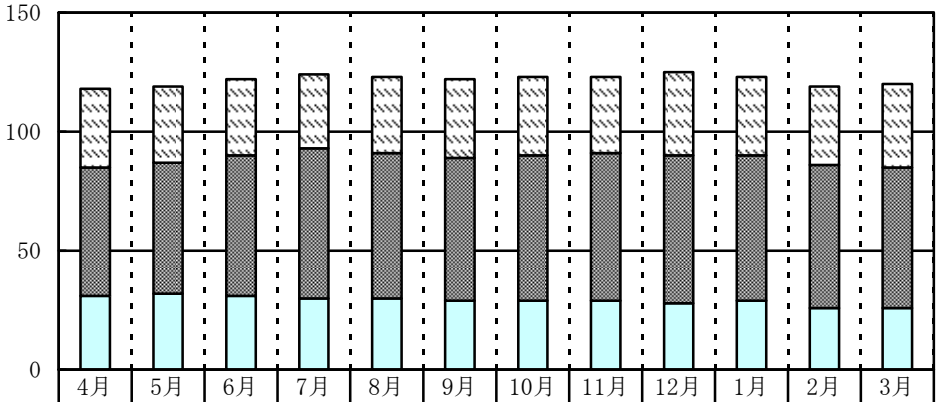
介護給付管理を行える上限(1 人あたり 39 人)に対して、給付管理をした人数の割合を表します。
ただし、介護予防については、1 件あたり 0.5 人とします。

（1111 件　＋（350 件÷2））　÷　1404 件(3 名×39 人×12 カ月）　＝　91.6%

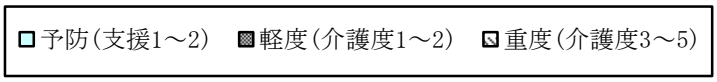
（介護給付件数＋(予防給付件数)）　÷　（給付管理上限人数）　＝　稼働率

4. 区分別利用者状況

（単位：人）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重度(介護度3～5)	33	32	32	31	32	33	33	32	35	33	33	35
軽度(介護度1～2)	54	55	59	63	61	60	61	62	62	61	60	59
予防(支援1～2)	31	32	31	30	30	29	29	29	28	29	26	26



5. 事業報告（総括）

ご利用者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援します。	
取　組　事　項	① 自立に向けた支援や地域の方とのつながりを持った生活が送れるよう、ご利用者本人の役割やインフォーマルなサービスを計画に位置付けます。 ② ICT等の活用により、ご利用者の状況を関係機関と共有し、迅速に対応方法や改善策を検討し、利用者の生活機能低下を予防します。 ③ 認知症についての理解を深めるために、専門研修等に参加するとともに各事業所で行われている認知症ケアを把握することで、その方にあったサービスの提案に努めます。
実　　績	① ご利用者の役割を明確にすることで、ご本人の意欲や自宅内での役割を明確にすることができた。 ② ICTの活用により、ご利用者の変化があった時に事業所等と連絡が取りやすくなり、スムーズにサービス調整ができた。 ③ 専門研修に参加し認知症について学んだ。ご利用者の状況により、その人にあった生活の場の提案やサービス利用に繋げることができた。
課題と今後の取組	・包括支援センターの研修や会議に参加し、地域に必要なサービスについて検討して行きます。

利用者の身体機能、健康状態の悪化を予防し、家族の介護負担を軽減できるよう努めます。	
取　組　事　項	① 利用者の状況に応じて受診同行し、かかりつけ医に情報を提供します。また、受診時の指示内容をサービス事業所と共有することで、状態の改善、悪化予防に努めます。 ② 感染症予防対策を実施するとともに、ご利用者やご家族への注意喚起を行います。
実　　績	① 健康状態に変化があった時は、電話等であらかじめ病院に相談し、必要に応じ受診に同行した。 ② 基本的な感染予防対策を徹底し、業務場所を分散するほかテレワークを導入した。 訪問先では、ご利用者やご家族に感染予防のための注意を促した。
課題と今後の取組	・ コロナ禍で、入院先での情報収集や事業所での利用状況などを確認することが難しくなっているため、ICTを有効に活用できるよう取り組んでいきます。

災害発生時など緊急事態発生時も、サービスが継続して受けられるように連絡体制を整備します。	
取　組　事　項	①　緊急時連絡表を定期的に更新し、緊急時にサービス調整等がスムーズに行えるようにします。 ②　被災した場合でも、服薬や治療が継続できるよう処方内容や疾患名を把握します。
実　　績	①　緊急連絡表を定期的に更新することで、担当が不在の時も、スムーズに連絡調整が行えた。 ②　タグレットを活用し、その場で得た情報をスムーズに事業所に発信することができた。
課題と今後の取組	・　災害時の対応マニュアルを基に普段から検討します。 ・　ICT活用について他事業所へ働きかけます。

5 東蒲の里研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項　　目	内　　容	主 な 研 修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	新型コロナウィルス感染症拡大防止のための基本所作研修
		新型コロナウイルス感染症予防研修(ウェブ)
		喀痰吸引等研修
		医療・介護連携強化に向けた特定給食施設等研修会
		安全運転管理者等講習
		新潟県老施協 管理者講習会(ウェブ)
		在宅介護サービス提供者に向けた高齢者栄養講座
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修
		LIFE(科学的介護情報システム)の活用方法の実際
		認知症の理解と対応～当事者の意思に沿ったケアの実践～
		第25回新潟県老人福祉施設研究大会(ウェブ)
		介護予防～自立支援のためのアセスメント～
		第6波に備える新型コロナウイルス感染症対策研修(ウェブ)
		リスクマネージャー養成講座(ウェブ)
		リスクマネージャー実践講座(ウェブ)

2. 内部研修参加状況

開　催　日	研　修　名	対象職員（人）	参加者数（人）	出席率（%）
5月	・感染症、食中毒予防について ・疾患、ご利用者の緊急対応研修 ・危険予知トレーニング	58	56	97
6月	・口腔、栄養、褥瘡ケアについて ・腰痛予防について ・身体拘束について ・危険予知トレーニング	58	57	98
8月16日 8月17日 8月18日 8月19日 8月20日 8月23日 8月24日	・救急法講習	58	54	93
8月	・メンタルヘルスについて ・プライバシー保護について ・苦情について ・危険予知トレーニング	56	54	96
9月	・法令遵守について ・個人情報保護について ・高齢者、障害者虐待防止について	―	―	―
10月	・感染症予防と吐物処理について ・緊急時の事故対応について ・危険予知トレーニング	56	56	100
11月	・看取り介護について ・身体拘束について ・危険予知トレーニング	56	56	100
12月	・事故事例検討、事故検証について ・危険予知トレーニング	56	36	64
1月	・褥瘡ケアについて ・危険予知トレーニング	56	47	84
3月	・医療的ケアについて	56	56	100

※9 月は法人合同で実施する予定であったが、感染症予防のため中止した。
とこなみと合同で開催したため、対象職員数、参加者数、出席率は〃数値となります。

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

・コロナ禍で研修の在り方も変わり、Web 研修会が主流となった。その中で、新型コロナウィルス感染症防止のための研修や介護力向上研修等も Web で参加し、技術の習得に努めた。

・障害者福祉事業においても、知識の習得や事例検討などの実践的な研修に参加した。

② 内部研修

・新型コロナウィルス感染症防止のため、集合研修は行わず、資料配付や動画視聴の研修を取り入れた。また、研修内容に沿った問題を出題し、回答の提出を以て参加と見なした。

6 東蒲の里 ボランティア活動状況

※新型コロナウィルス感染症予防対策のためボランティアの受け入れを中止した。

7 東蒲の里 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓　練　内　容	参加者数
10 月 20 日	〈東蒲の里〉 日中想定避難訓練 地震が発生し火災が発生した想定で、初期消火訓練・初期消火・避難訓練を実施し、消防本部の講評後、消火訓練を行った。	12 名 (職員)
3 月16日	〈東蒲の里〉 夜間想定訓練 初期消火訓練・通報訓練・避難訓練を実施し、消防本部の講評後消火訓練を行った。	8 名 (職員)

2. 消防設備点検

開催月日	訓　練　内　容
6 月 3 日	＜東蒲の里＞ ・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した
12月 9 日	〈東蒲の里〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

８ 東蒲の里 苦情受付・対応報告

苦　　情

＜特養＞

1. ご利用者ご家族様より

施設での面会を終え帰り際に、「介護職員Ａさんから介護の際に厳しい言葉を受けた。本人が「トイレに行きたい。」と話すと「さっきしたばかりでしょ。」と言われた。お金を払って信用しているのに、このようなことがあると退所しなければならない。」と話された。

また、ご利用者本人から聞き取りを行い、ご家族様より話しがあった職員の他に２名の職員からも厳しい言葉を言われたことも確認した。

・名前の挙がった職員には、課長、係長より注意を行った。
・施設長から東蒲の里の全職員に対して、講義を行った。
・ご利用者に、定期的に職員の言葉遣いが改善されたか確認を行っていく。

＜要因:サービスの質＞

苦情の発生件数

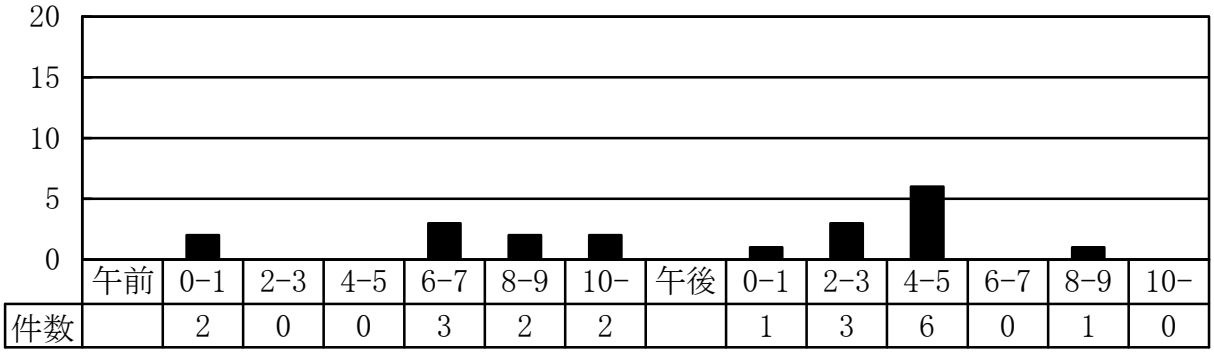
事　　業	件数
特　　養	0件
短期入所	1件
通所介護	0件
居　　宅	0件
合　　計	1件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0件
職員の態度	0件
サービスの質	1件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合計	1件

９ 東蒲の里 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 20 件〉

2. 場所別発生件数

発 生 場 所	件 数
居室	7 件
食堂・デイルーム	7 件
トイレ	0 件
廊下・玄関	2 件
浴室	1 件
施設外	0 件
その他	3 件
合計	20 件

3. 内容別発生件数

事 故 内 容	件 数	阿賀町へ報告
骨折	4 件	4 件
裂傷	1 件	
打撲・皮下出血	6 件	
チューブ抜去	0 件	
無断外出	0 件	
私物紛失・破損	1 件	
異食・誤飲	1 件	1 件
誤薬	5 件	5 件
車輌事故	0 件	
その他	２ 件	
合計	20 件	10 件

４．事故報告

・令和２年度と比較して、２件増加した。(令和２年度１８件)。事故の件数が増えたことに伴い、毎月、行われている危険予知トレーニングの研修方法の見直しを行います。
また、検討された再発予防策が確実に実施できているか、毎月、担当する委員会にて検証していきます。

Ⅲ　令和３年度社会福祉法人東蒲原福祉会

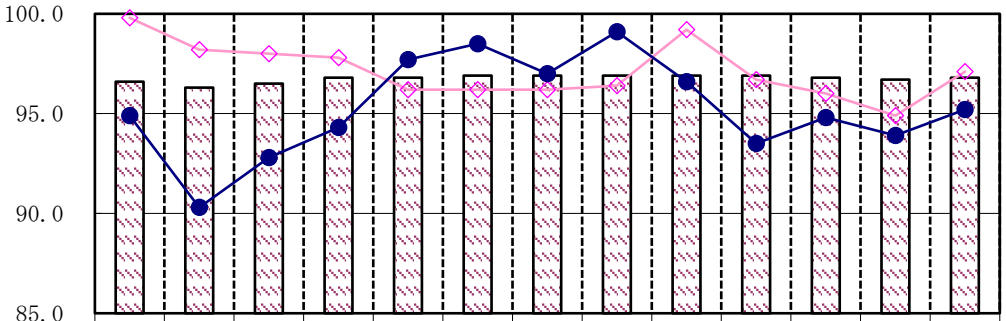
東蒲の里みかわ園　事業報告

	頁
１．介護老人福祉施設（特　養）	２８
２．短期入所生活介護事業（ショートステイ）	３２
３．通所介護事業（デイサービス）	３６
４．通所型サービスＡ（基準緩和型）	４０
５．高齢者生活支援ハウス	４１
６．新潟水俣リハビリモデル事業	４２
７．外出支援サービス事業	４４
８．東蒲の里みかわ園研修報告	４５
９．東蒲の里みかわ園ボランティア活動状況	４７
10．東蒲の里みかわ園災害対策	４７
11．東蒲の里みかわ園苦情受付・対応報告	４８
12．東蒲の里みかわ園事故等発生状況報告	４８

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	96.6	96.3	96.5	96.8	96.8	96.9	96.9	96.9	96.9	96.9	96.8	96.7	96.8%
令和 2 年度	99.8	98.2	98.0	97.8	96.2	96.2	96.2	96.4	99.2	96.7	96.0	94.9	97.1%
令和 3 年度	94.9	90.3	92.8	94.3	97.7	98.5	97.0	99.1	96.6	93.5	94.8	93.9	95.2%

※稼働率について

・介護老人福祉施設の 1 日定員（50 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 17,381 日であったことから

17,381 日 ÷ 18,250 日〈50 人 × 365 日〉 ＝0.9523 稼働率 95.2%

（延べ利用日数） （定員） （実稼働日数）

2. 要介護度別入所者数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	0	1	4	26	19	4.26
令和 3 年度	0	1	4	26	19	4.26

3. 要介護度状態の変化（令和 4 年 3 月 31 日にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要介護
改 善	1 人
維 持	45 人
悪 化	4 人
合 計	50 人

4. 年間行事報告

開催日	実 施 行 事	内　　容
4 月 10 日	お 花 見	・ドライブをしながら桜を見ていただいた。
6 月 24 日	団子作り	・笹の葉を敷き、季節感が出るように工夫し楽しんで いただいた。
7 月 7 日	七 夕 会	・短冊に願いを書いて笹に飾り付を行った。
8 月 1 日	三 涼 祭	・新型コロナウイルス感染対策のため、実施せず、季節感を味わえる食事を楽しんでいただいた。
9 月 12 日	敬 老 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、式典及び祝宴は実施せず、賀寿のお祝いの方に花束をプレゼントし、記念撮影を行った。
12 月 16 日	忘 年 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、行事内容を縮小し、クリスマスの飾りつけや行事食を楽しんでいただいた。
12 月 28 日	手打ちそば会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
1 月 1 日 ～3 日	お 正 月	・おしるこや、甘酒でお正月を迎えていただいた。
2 月 3 日	節 分	・新型コロナウイルス感染対策のため、豆まきは行わず、節分にちなんだおやつを食べ楽しんでいただいた。
3 月 3 日	ひな祭	・甘酒やお菓子でひな祭りの雰囲気を感じていただいた。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。

5. 事業報告(総括)

ご利用者ケアの質の向上と職員の腰痛予防に努めます。	
取　組　事　項	① ご利用者に安全安心な移乗動作を行うため、また職員の腰痛を予防できるよう人力での移乗を減らし、福祉機器を有効的に使用する「ノーリフトケア」に取り組みます。 ② 介護情報データベースを活用してエビデンスに基づいた介護サービスを提供できる体制を整え、ケアの質の向上に取り組みます。
実　　績	① スライディングボードを使用するご利用者を選定して実施することにより職員の腰痛予防やご利用者の残存機能を活かすことができた。 ② 認知症ケアについて統一したケアができるよう実践の場面で、その都度職員へ対応方法等の指導を実施した。
課題と今後の取組	・個別援助方法の一覧を継続して作成し、新任職員の育成に取り組む。 ・現在、認知症があるご利用者の中で対応が困難な方の行動を分析し、個別的ケアに活かす。 ・移乗リフトやスライディングボードの数を増やし、必要なご利用者に使用できるようにする。

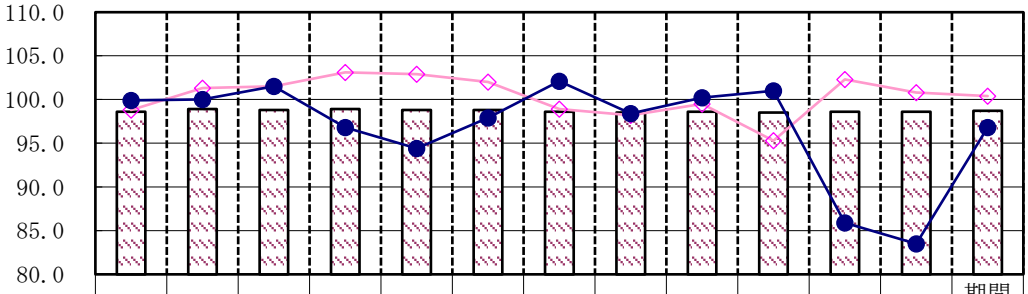
ご利用者の重度化予防及び感染症予防に努めます。	
取　組　事　項	① 介護職員の喀痰吸引資格の取得を進め医療的ケアの向上に努め、多職種協働で水分摂取量や栄養状態を管理してご利用者の体調維持に取り組みます。 ② 各種感染症予防のガイドラインに則り感染対策を徹底して取り組みます。
実　　績	① 介護職員の喀痰吸引の資格取得はスムーズに行うことができなかったが、医療的ケアについては看護職員から介護職員へ周知を行い、栄養状態、水分摂取量の維持等、利用者個々へ対応を行うことができた。 ② 各種感染症による対策を講じながら実践していたが、２月に施設内にて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生してしまった。
課題と今後の取組	・資格取得に向け、施設内での実施研修を計画的に進めて行き、さらなる医療的ケアの向上を目指していく。 ・新型コロナウイルス施設内感染の対応で学んだことを生かし、各種感染症対策を徹底し継続していく。

ICT 活用して職員の連携と業務改善に努めます。	
取　組　事　項	① ナースコール入替えに伴い、連動したスマートホンを導入し職員同士の声掛け連携をスムーズにして業務の効率化に取り組みます。
実　　績	① ナースコールの取扱い業者からプレゼンを受け検討してきた結果、導入したい機種が予算額を超えるため、再度積み立てを行って入れ替えをすることとした。
課題と今後の取組	・ナースコール入替え及びスマートホンの導入の準備を進めて行き、その他にも業務の効率化につながるものについて情報収集を行っていく。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	98.6	98.9	98.8	98.9	98.8	98.8	98.6	98.5	98.6	98.5	98.6	98.6	98.7%
令和 2 年度	98.8	101.3	101.5	103.1	102.9	102.0	98.9	98.2	99.5	95.3	102.3	100.8	100.4
令和 3 年度	99.9	100.0	101.5	96.8	94.4	97.9	102.1	98.4	100.2	101.0	85.9	83.5	96.8%

※稼働率について

・短期入所の 1 日定員(20 人)を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1 年間の延べ利用日数が 7,069 日であったことから

7,069 日 ÷ 7,300 日〈 20 人× 365 日 〉 ＝ 0.9683　　稼働率 96.8%

（延べ利用日数）　　（定員）（実稼働日数）

※稼働率が 100%を超えている理由について

・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が 100%を超えている状況です。

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	40	154	115	1,383	1,791	1,277	1,204	1,363	7,327 日
令和 3 年度	46	196	284	1,664	1,439	1,262	1,249	929	7,069 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	50	51	55	53	57	51	52	49	47	49	42	55	51 人
延べ利用日数	599	620	609	600	585	587	633	590	621	626	481	518	589 日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和 2 年度	1.47	5.08 日	2.90	13.57 日
令和 3 年度	1.53	6.67 日	2.76	12.14 日

5. 要介護度状態の変化(令和 4 年 3 月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	2 人
維 持	5 人	43 人
悪 化	0 人	5 人
合 計	5 人	50 人

6. 年間行事報告

開催日	実 施 行 事	内 容
8 月 1 日	三 涼 祭	・新型コロナウイルス感染対策のため、実施せず、季節感を味わえる食事を楽しんでいただいた。
9 月 12 日	敬 老 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、式典及び祝宴は実施せず、賀寿のお祝いの方に花束をプレゼントし、記念撮影を行った。
12 月 16 日	忘 年 会	・クリスマスケーキを用意して食べていただき、楽しんでいただいた。
1 月 1 日 ～3 日	お 正 月	・おしるこや、甘酒でお正月気分を感じていただいた。
2 月 3 日	節 分	・新型コロナウイルス感染対策のため、豆まきは行わず、節分にちなんだおやつを食べて楽しんでいただいた。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。

7. 事業報告(総括)

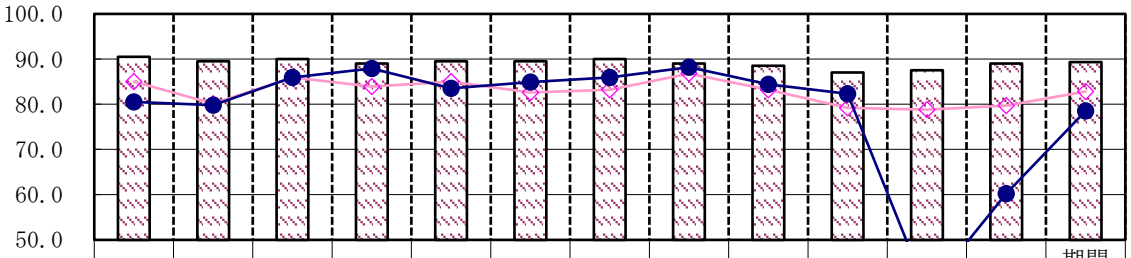
在宅生活が継続できるように支援します。	
取　組　事　項	① 訪問介護サービス及びデイサービスと連携し、安心してサービスを利用しながら元気に在宅生活が継続できるように体調管理等の情報の共有を図ります。 ② 在宅生活が困難な方が希望する期間を利用できるように、当法人内の短期入所サービスと連携して利用調整を図り、受け入れができるように取り組みます。 ③ 毎月「利用者状況報告書」を作成して居宅介護支援事業所へ提出することで、ご家族や各関係機関等が施設での利用状況と支援内容が把握できるようにします。
実　　績	① 担当介護支援専門員へ毎月、情報を提供することでご利用者の体調や家族の意向等を訪問介護サービスやデイサービスと情報の共有を図ることができた。 ② 当法人内の短期入所サービス 3 事業で利用調整をすることで入院中に退院許可が出ても在宅復帰が困難な方や、急な介護負担軽減を目的とした受入れができた。 ③ サービス担当者会議の際に ZOOM（ビデオ会議アプリ）を活用したことで参加がしやすくなり、施設でのサービス状況を関係機関に知っていただくことができた。また「利用者状況報告」を居宅介護支援事業所へ提出することで関係機関との情報の共有ができた。
課題と今後の取組	・ 在宅生活の継続が難しくなってきた方については、阿賀町での在宅生活の継続ができるように担当介護支援専門員を通じて、短期入所サービスでの利用調整会議に他のサービスも交えて利用調整を支援する。 ・ 今後も選ばれる施設を目指し「利用者状況報告」を活用して、施設でのサービス内容を知ってもらうことで新規利用者の獲得へと繋げていく。また、slack(ビジネスチャットアプリ)を活用して法人内で利用者状況の把握をする。

安心してご利用できるように、介護技術の向上を目指します。	
取　組　事　項	① 感染症の予防を徹底し、感染と蔓延を防ぐことで体調面の安定を図ります。 ② 身体状態の異常に早く気づけるように、各事業所と情報を共有します。 ③ 事業所が主催するケア会議等を通じ、居宅介護支援事業者及び居宅サービス事業者との連携を深め、統一したケアを目指します。 ④ 医療的ケアの質の向上に取り組むことで、重度の方や看取り介護を希望される方が安心してご利用できるよう努めます。
実　　績	① 新型コロナウイルス感染症の流行によりサービスに影響がでたが、その他の感染症に関しては感染予防策を行うことで防ぐことができている。 ② 体調面の把握と異常の早期発見ができたことで、早めの受診へと繋がり、入院回数を減らすことができている。 ③ 事業所が主催するケア会議に ZOOM（ビデオ会議アプリ）を取り入れることで関係機関と情報を共有することができた。また、ご利用者が生活しやすい環境を整備し、ニーズに応じたケアの実践に繋がっている。 ④ 医療機関との連携を図ってきたことで、重度の方のサービス利用に結びついた。また根拠に基づいた援助を行ってきたことでご利用者の状態維持に繋がった。
課題と今後の取組	・ slack(ビジネスチャットアプリ)を活用して法人内で利用者状況の把握をする。 ・ 検討会に ZOOM（ビデオ会議アプリ）を活用することで、参加の機会を増やし、多くの関係機関と情報共有ができるように取り組む。 ・ 重度の方の受入れがスムーズにできるように医療機関との連携と、情報の把握を積極的に行っていく。 ・ 看取り介護のサービス向上のため、事業所内外の研修に参加する。

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	90.5	89.5	90.0	89.0	89.5	89.5	90.0	89.0	88.5	87.0	87.5	89.0	89.3%
令和 2 年度	85.0	80.1	85.9	83.9	85.0	82.6	83.2	86.8	83.2	79.2	78.8	79.7	82.8%
令和 3 年度	80.5	79.8	85.9	87.9	83.5	84.9	85.9	88.2	84.4	82.3	38.5	60.2	78.5%

※稼働率について

・通所介護事業の 1 日定員（22 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 5,372 日であったことから

5,372 日 ÷ 6,842 日〈22 人 × 311 日〉 ＝ 0.78.51 稼働率 78.5%

（延べ利用日数） （定員） （実稼働日数）

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	42	654	419	1,747	1,070	505	594	631	5,662 日
令和 3 年度	38	528	562	2,036	630	617	404	557	5,372 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	64	66	65	66	64	63	62	61	66	59	56	53	62 人
延べ利用日数	460	456	491	522	477	485	491	504	501	434	194	357	448 日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
令和 2 年度	1.39	5.16 日	2.40	8.34 日
令和 3 年度	1.41	4.64 日	2.39	8.37 日

5. 要介護度状態の変化（令和４年３月にご利用されている方を対象としています。）

内　容	要支援	要介護
改　善	０人	３人
維　持	15 人	29 人
悪　化	４人	２人
合　計	19 人	34 人

※基準該当（障害者）1 名を除く

6. 年間行事報告

開催日	実　施　行　事	内　　容
７月１日 ～7 日	七夕週間	・短冊に願いを書き飾り付けを行った。
９月	敬　老　会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
11 月	作　品　展	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
12 月	忘　年　会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。

7. 事業報告（総括）

安心して利用していただけるよう、ご家族との連携に努めます。	
取　組　事　項	① 当法人内の訪問介護サービス及び短期入所サービスと連携してご利用者をサポートする体制を整え、ご家族とのコミュニケーションを大切にして、精神的支援に努めます。 ② ご家族からの要望やアンケート結果を踏まえ、在宅生活が継続できるよう職員の知識や技術を提供します。
実　　績	① 担当職員と情報を共有し、都合でキャンセルした場合、家族の負担を考え、代替え日に利用ができるよう提案する取組みができた。 ② ご家族から、ご利用者の健康面や不適応行動への対処方法などの相談を受け、職員が助言をしたことで、家族の不安軽減につながり、信頼関係を築くことができた。
課題と今後の取組	・ 在宅生活が継続できるよう、介護負担の把握に努め、生活面での心配ごとに対して対応できるよう、担当職員がご家族と情報共有を図っていく。

生活能力向上や意欲向上に向けた認知症ケアに努めます。	
取　組　事　項	① 認知症専門職員が知識を活かし、症状別の根拠に基づいた認知症ケアを実践します。 ② 目的や役割を持つことで、生きがいを持って参加できるよう認知症ケアプログラムに取り組みます。
実　　績	① 認知機能予防のためのプログラムを作成し、取り組みやすい環境を整えた。 ② ご利用者個々に対し、かかわりや介助を工夫することにより不安感を軽減し、落ち着いて過ごせるように取り組みを行った。また、機能訓練器具等を活用した運動や、日常動作訓練など、集中して取り組める時間を設けたことで、「帰宅後はよく眠ることができた」「落ち着かない様子が減少した」「活動に興味を示す時間が増えた」等、家族からの声が聞かれ、効果がみられた。
課題と今後の取組	・ 今後もご利用者への効果的な対応方法や認知症対応の専門性を高め、ご利用者が喜びを感じ、意欲的に「できる」ことが増えるようなプログラム活動に取り組んで行く。

効果的な機能訓練を実践し、ご利用者ご家族の生活をささえられるよう努めます。	
取　組　事　項	① 多職種協働でアセスメントに基づく機能訓練計画を作成し、PDCA により機能訓練を実践していきながら、効果を実感していただけるように取り組みます。 ② ご利用者のニーズを把握し、ご利用者やご家族に機能訓練の効果について丁寧な説明を行い、意欲的に機能訓練が行えるよう取り組みます。
実　　績	① 明確な目標を設定し、具体的に効果を示すことで下肢機能の向上に必要な移動（歩行）・立位に関する個別の機能訓練メニューを職員に周知して取り組んだ。 ② 訓練の実施状況やリハビリ内容をご家族に説明することができた。また機能訓練指導員を中心とした評価、見直しを継続して取り組んだことで、ご利用者が意欲的に訓練に参加されるようになった。
課題と今後の取組	・ご利用者一人ひとりの希望や生活環境の把握を行い、課題を解決していく。 ・自宅での生活機能向上と活動量が向上するよう、運動・口腔・栄養の一体的なサービス提供に取り組む。

４ 通所型サービスＡ(基準緩和型)

1. 通所型サービス利用状況

	新規 登録者数	登録者数	登録 終了者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均 利用者数
4 月	0	7	0	4	24	6.0
5 月	0	6	1	3	11	3.6
6 月	0	6	0	4	18	4.5
7 月	0	6	0	4	20	5.0
8 月	0	6	0	3	12	4.0
9 月	1	6	1	4	18	4.5
10 月	0	6	0	4	20	5.0
11 月	0	6	0	4	15	3.8
12 月	0	6	0	4	19	4.8
1 月	0	5	1	4	15	3.8
2 月	1	6	0	2	7	3.5
3 月	0	6	0	3	17	5.7
年間 統計	2 人		3 人	43 日	196 人	4.5

5 高齢者生活支援ハウス

1. 生活支援ハウス利用状況

	新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数		新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数
4 月	0	0	7	10 月	0	0	7
5 月	0	0	7	11 月	0	0	7
6 月	0	0	7	12 月	0	0	7
7 月	0	0	7	1 月	0	0	7
8 月	0	0	7	2 月	0	0	7
9 月	0	0	7	3 月	0	0	7
				合計	0 人	0 人	7 人

2. 年間行事・交流会

入居者同士の交流や地域との交流のため、行事の企画と参加を支援した。

開催日	行　　事
7 月 27 日	暑気払い
9 月 17 日	敬老　月見会
12 月 24 日	クリスマス会
1 月 13 日	小正月　だんご飾り
2 月　4 日	節分豆まき
3 月　3 日	ひな祭り
3 月 21 日	お彼岸　茶話会

3. 介護サービス利用状況

利用介護サービス	利用入居者数
デイ ケア	3 人
デイサービス・訪問介護	3 人

6 新潟水俣リハビリ事業

1.「らっくり体ケア教室」利用状況

	新規登録者数	登録者数	終了者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4 月	0	65	1	19	214	11.2
5 月	1	65	0	18	188	10.4
6 月	0	65	0	22	233	10.5
7 月	0	65	0	20	211	10.5
8 月	0	65	1	19	169	8.8
9 月	0	64	0	8	74	9.2
10 月	0	64	0	21	216	10.2
11 月	0	64	1	20	192	9.6
12 月	0	63	2	20	199	9.9
1 月	0	61	0	19	171	9
2 月	0	61	0	18	144	8
3 月	1	61	0	14	129	9.2
年間	2 人		5 人	218 日	2,140 人	9.8 人

2. 交流会行事実施報告

開催日	実 施 行 事	内　　容
4月 6日 ～12日	お花見	・小花地ダムへ行き、花見を楽しんでいただく。
5月10日 ～14日	お楽しみ会	・ホットプレートを使ってお好み焼きを作り、美味しくいただいた。
6月14日 ～18日	お楽しみ会	・豆腐を使って作ったお団子にゴマや、きな粉、あんこをつけて美味しくいただいた。
7月 5日 ～9日	七夕会	・短冊を書いて飾り、七夕にちなんだお菓子を美味しくいただいた。
8月23日 ～27日	お楽しみ会	・白玉ぜんざいを作り、美味しくいただいた。
9月27日 10月 1日	敬老会	・喜寿、米寿、傘寿の方へお祝い品を贈呈。
10月25日 ～29日	ハロウィン	・ハロウィンにちなんだお菓子を美味しくいただいた。
11月15日 ～19日	じゃんけん大会	・職員とじゃんけん対決をして勝者からお菓子のつかみ取りを行っていただいた。
12月20日 ～24日	クリスマス会	・千本釣りゲームを楽しみながらプレゼント交換を行い、クリスマスケーキを美味しくいただいた。
1月 4日 ～ 7日	新年会	かるた取り大会を楽しんだ。

※ 2月に計画していた行事については、新潟県にまん延防止措置が発令され、教室が午前中のみであったため中止した。

7 外出支援サービス事業

1. 外出支援事業利用状況

実 績		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間実績
利用件数		4	7	9	10	7	5	3	6	6	4	4	7	72 件
地域	郡内	4	6	8	10	7	4	2	4	5	2	3	6	61 件
	郡外	0	1	1	0	0	1	1	2	1	2	1	1	11 件

2. 外出支援状況

利用目的	受付件数	実施件数
受診移送	56 件	54 件
入院移送	0 件	0 件
退院移送	11 件	6 件
外出移送	12 件	12 件

月平均利用件数	6 件
一件の平均距離	54.9 km
一件の平均所要時間	3.1 時間

8 東蒲の里みかわ園 研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項　　目	内　　容	主 な 研 修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び、対人援助に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	喀痰吸引等研修
		安全運転管理者等講習
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修第1回研修会(ZOOM 参加)
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修第2回研修会(ZOOM 参加)
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修第3回研修会(ZOOM 参加)
		第 25 回新潟県老人福祉施設研究大会(ZOOM 参加)
		21 世紀委員会研修会 (ZOOM 参加)
		社会福祉法人会計基準実践的基礎講習(配信動画視聴)
		ノーリフトケアコーディネーター養成講座(ZOOM 参加)
そ の 他	情報管理説明会など	指定介護老人福祉施設サービス事業者等集団指導(ZOOM 参加)
		通所型サービス事業者等集団指導(ZOOM 参加)

2. 内部研修参加状況

開 催 日	研 修 名	対象職員（人）	参加者数（人）	出席率（%）
5 月 17 日 ～5 月 26 日	・食中毒について ・身体拘束・高齢者虐待について	60	60	100
6 月 15 日 ～6 月 25 日	・褥そう予防について ・災害マニュアルについて	60	60	100
8 月 16 日 ～8 月 25 日	・救急法講習	59	59	100
8 月 22 日 ～8 月 27 日	・リスクマネジメントについて ・認知症ケアについて	59	59	100
9 月 11 日 ～9 月 25 日	・法令遵守について ・個人情報保護について ・虐待防止について	59	59	100
10 月 30 日 ～11 月 11 日	・メンタルヘルスケアについて	60	60	100
11 月 22 日 ～11 月 30 日	・口腔ケアについて ・感染症対策実践について	58	58	100
12 月 24 日 ～1 月 10 日	・腰痛予防について ・安全で負担の少ないトランスファーについて	57	57	100
1 月 29 日 ～2 月 11 日	・防災マニュアルについて ・ターミナルケアについて	56	56	100
3 月 25 日	・身体拘束・高齢者虐待について ・リスクマネジメントについて	55	55	100

3. 研修報告（総括）

① 外部研修

・新型コロナウイルスの流行で中止となった研修もあったが、その後に ZOOM や、動画視聴で参加できる研修が増えた。

・救急法は、阿賀町消防署において人数制限を設け、法人内施設合同で実施した。

②内部研修

・新型コロナウイルス感染対策により、集まっての研修が行えないため、資料の配布や web を利用した研修となったが、問題形式にして、読む、見るだけでなく、考えて答えを記入するなど、今までの研修とは違った形式で実施できた。

・感染症の流行もあり、外部からの講師による研修を中止した。

9 東蒲の里みかわ園 ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染予防対策のため、ボランティアの受け入れを中止した。

10 東蒲の里みかわ園 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓　練　内　容	参加者数
3 月 25 日	・緊急連絡訓練 夜間に緊急連絡網及び公式 LINE アプリを使用し、職員への伝達訓練を行った。	56 名 (職員)
6 月 29 日	・火災想定避難訓練(夜間想定) 阿賀町消防本部立会いの下、夜間実際に緊急連絡網により職員を招集し、車いすを利用者に見立て避難誘導を実施した。　(近隣区長1名参加)	12 名 (職員)
10 月 29 日	・火災想定避難訓練(日中想定) 避難訓練を実施した。	18 名 (職員)
11 月 19 日	・土砂災害避難訓練、地震避難訓練(日中想定) 土砂災害警戒 レベル・ステージ 3 が発表された想定で実施した。	20 名 (職員)

2. 消防設備点検

開催月日	訓　練　内　容
6 月　3 日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
7 月 28 日 ～29 日	・放送設備の取替工事を行った。
8 月　5 日	・阿賀町消防本部による立ち入り検査 取替後の放送設備及び施設内部の立入検査を受けた。
9 月 16 日	・契約業者による消防設備の点検 火災報知機などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。＜支援ハウス＞
12 月 14 日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

11 東蒲の里みかわ園 苦情受付・対応報告

※年度を通して、苦情などはありませんでした。

苦情の発生件数

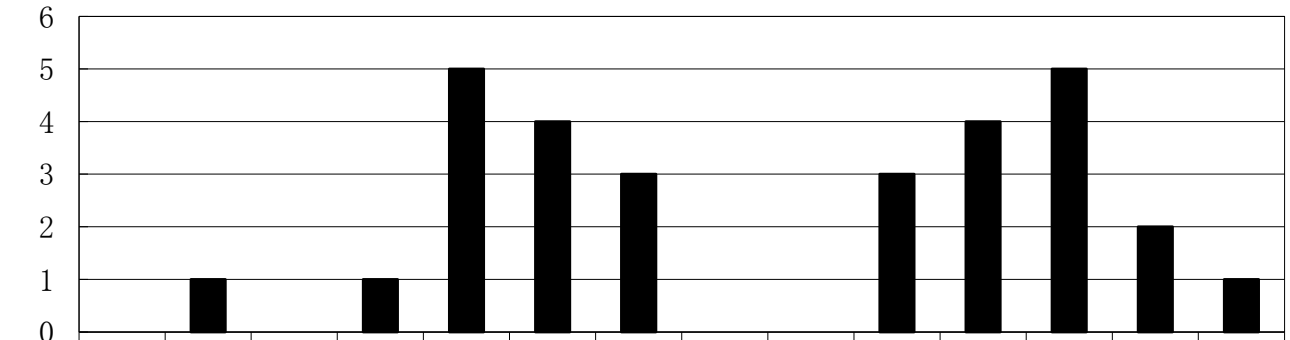
事　　業	件数
特　　養	0件
短期入所	0件
通所介護	0件
合　　計	0件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0件
職員の態度	0件
サービスの質	0件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
合　　計	0件

12 東蒲の里みかわ園 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



	午前	0-1	2-3	4-5	6-7	8-9	10-11	午後	0-1	2-3	4-5	6-7	8-9	10-11
件数		1	0	1	5	4	3		0	3	4	5	2	1

〈発生件数合計 29 件〉

2. 場所別発生件数

発 生 場 所	発生件数
居室	10 件
食堂・デイルーム	8 件
トイレ	1 件
廊下・玄関	0 件
浴室	4 件
施設外	3 件
その他	3 件
合計	29 件

3. 内容別発生件数

発 生 内 容	発生件数	阿賀町へ報告
転倒･転落	3 件	2 件
裂傷･火傷	15 件	0 件
打撲･皮下出血	3 件	2 件
チューブ抜去	1 件	0 件
私物紛失	0 件	0 件
無断外出	0 件	0 件
異食･誤飲	0 件	0 件
誤薬･与薬もれ	2 件	2 件
車輌事故	3 件	0 件
その他	2 件	0 件
合計	29 件	6 件

４. 事故報告

・各事業所で事故の発生後に原因分析と検証を行い、また全職員で「ひやりハット報告」を提出し、事故予防の意識を高める取り組みを行ってきた。

・発生状況については、「裂傷・火傷」、「転倒・転落」、「車両事故」が多かったこと、また午前の６時から 11 時、午後の２時から７時の時間帯に事故が多く発生しているため、分析と検証を行い、対策を周知徹底して事故予防に取り組みます。（２月～３月にかけては、新型コロナウイルスの施設内感染が発生したことにより事故件数が少なかった。）

Ⅳ　令和３年度社会福祉法人東蒲原福祉会

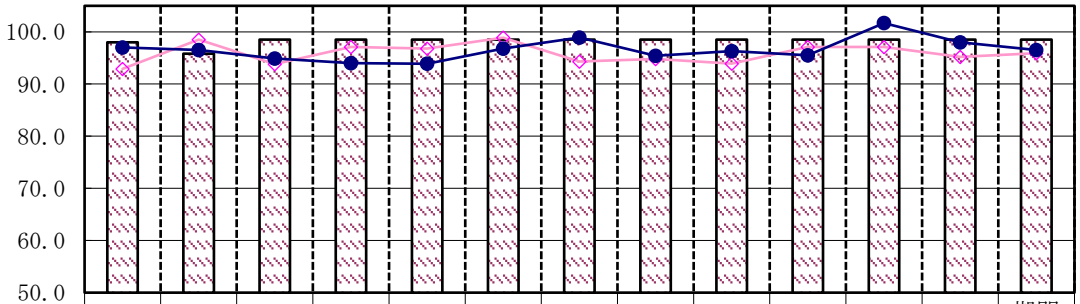
ケアセンターどんぐり　事業報告

	頁
１．短期入所生活介護事業（ショートステイ）	５０
２．訪問介護事業（介護保険）	５３
３．小規模多機能型居宅介護事業	５８
４．認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	６２
５．障害福祉サービス事業	６６
６．まごの手サービス（介護保険外事業）	６６
７．ケアセンターどんぐり研修報告	６８
８．ケアセンターどんぐり災害対策	７０
９．ケアセンターどんぐり苦情受付・対応報告	７１
10．ケアセンターどんぐり事故等発生状況報告	７２

1 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	98.0	95.8	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5%
令和2年度	92.9	98.5	93.8	97.1	96.8	98.9	94.3	94.8	93.9	97.1	97.1	95.2	95.9%
令和3年度	97.0	96.5	94.9	94.0	93.9	96.8	98.9	95.4	96.3	95.5	101.7	98.0	96.5%

※稼働率について

1 日定員(21 人)を 100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 7,400 日であったことから

7,400 日 ÷ 7,665 日〈21 人×365 日=7,665 日〉 ＝ 0.9654　稼働率 96.5%

(延べ利用日数)　　(定員)　　(実稼働日数)

2. 要介護度別利用延べ日数

	要支援		要介護度					計
	1	2	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	62	266	1,528	1,497	2,175	1,726	93	7,347 日
令和 3 年度	157	163	1,920	1,439	2,240	1,363	118	7,400 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	45	42	45	44	44	46	47	48	48	53	50	49	47 人
延べ利用日数	611	628	598	612	611	610	644	601	627	622	598	638	617 日

4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
令和 2 年度	1.13	10.9 日	2.53	16.6 日
令和 3 年度	1.34	6.65 日	2.49	13.6 日

5. 要介護度状態の変化（令和４年３月にご利用されている方を対象とします。）

内容	要支援	要介護
改善	0 人	1 人
維持	0 人	47 人
悪化	0 人	1 人
合計	0 人	49 人

6. 年間行事報告

開催日	実施行事	内　　容
4 月 10 日	花見	・城山公園へ行き、桜を眺め気分転換を図った。
7月 28 日	納涼祭	・景品が当たるゲームを行い楽しんでもらった。
9 月 17 日	敬老会	・慶祝者にちゃんちゃんこを着ていただきお祝いをした。ご利用者に記念品の贈呈を行った。
10 月 24 日	秋の味覚祭	・鮭のちゃんちゃん焼きやきのこ御飯など秋の味覚を味わっていただいた。おやつには秋を感じさせるマロンケーキを召し上がってもらった。
12 月 23 日	クリスマス忘年会	・職員がクリスマスにちなんだ仮装を行いご利用者にプレゼントをお渡しした。歌やゲームで楽しんでいただき、ケーキを召し上がってもらった。
2 月 3 日	節分	・鬼に扮した職員に向けて、ご利用者が豆をまき鬼退治していただき、おやつに人形焼きを召し上がってもらった。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

7. 事業報告（総括）

ショートステイの役割を理解し、サービス提供を行う職員として節度ある対応を実践します。	
取　組　事　項	①ご利用者やご家族のニーズが引き出せるよう、言葉遣いや態度など相手と円滑なコミュニケーションが図れる対応を実践します。 ②地域住民と交流の機会が増えるよう積極的な挨拶に取り組みます。
実　　績	①ご利用者やご家族と話す機会に、要望や情報共有など円滑なコミュニケーションを図れる職員が多くなった。 ②地域住民と交流の機会はなかったが、利用者との散歩中や近隣の場所などで積極的に挨拶を行った。
課題と今後の取組	・言葉使いや表情など節度ある言動を心掛け、ご利用者の対応に取り組む。

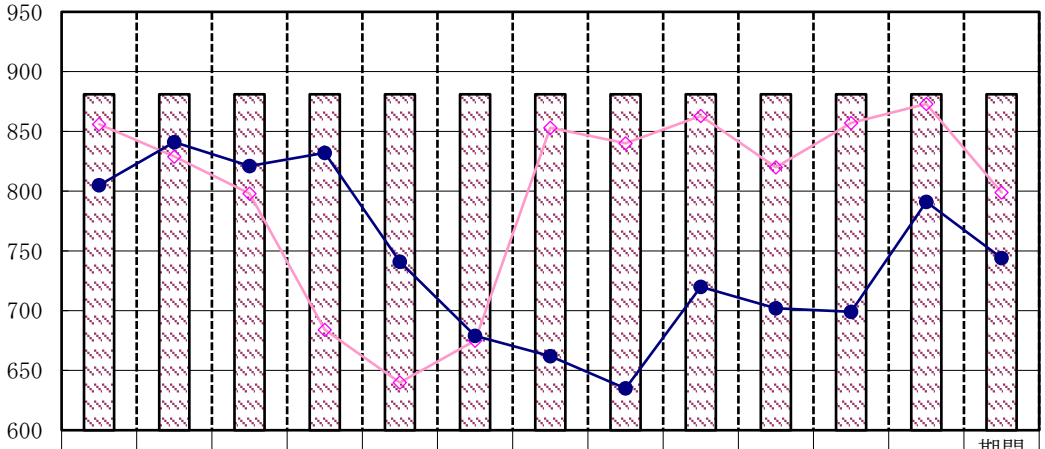
情報共有に努め、統一したケアの提供と介護技術の向上を目指します。	
取　組　事　項	①各職種が個々の役割を理解し、職種ごとの技術を活かした心身のケアに努めます。 ②ICT が活用できる体制を整え、業務の効率化と情報共有に取り組みます。 ③介護技術の向上と専門性を身につけるために資格取得を目指します。 ④喀痰吸引等研修を受講し資格取得を目指します。
実　　績	①介護、看護、相談員が情報共有を行い、各職種が協力し統一した心身のケアに取り組むことができた。 ②ICTが活用できる体制が整ったことで、スケジュールや会議録などのクラウド管理やオンライン会議を含め迅速な情報共有と業務の効率化に取り組むことができた。 ③介護福祉士国家試験を 2 名受験したが不合格だった。 ④喀痰吸引等研修を 2 名受講した。現在法人内の施設で実地研修を受けている。
課題と今後の取組	・ICT の活用を定着させ、情報共有を行い統一したケアに取り組む。

災害や感染症に対応できる体制を整えます。	
取　組　事　項	① 災害対策マニュアルに基づいて動けるよう訓練等を行います。 ② 感染症が発生した場合に動けるようシミュレーションを実践します。
実　　績	① 年間を通じて避難訓練を含めた訓練を実施した。 ② 感染症発生を想定したシミュレーシンの実践はできなかったが、ゾーニングの方法とガウンテクニックを実施した。
課題と今後の取組	・災害と感染症に対応できる訓練を計画し実施する。

2　訪問介護事業(介護保険)

1. 訪問介護月別実績状況

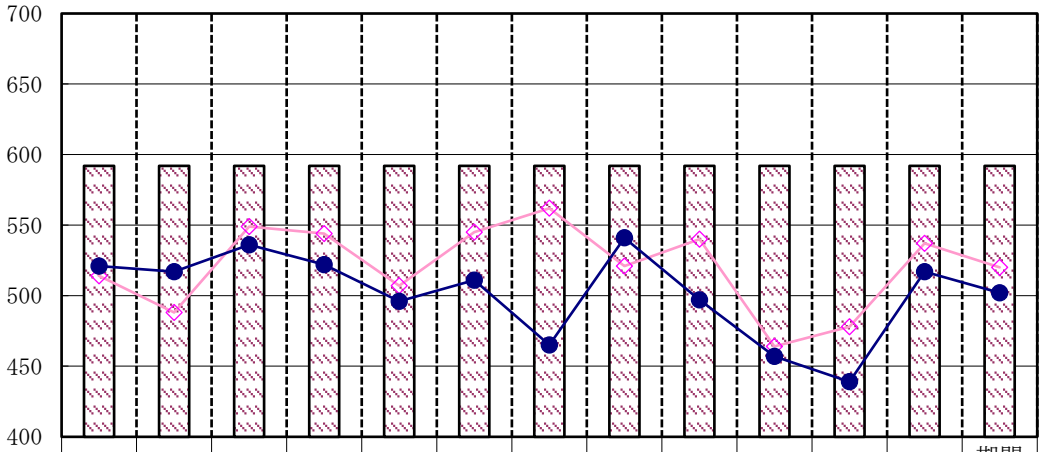
(単位：回)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画利用回数	881	881	881	881	881	881	881	881	881	881	881	881	881
令和2年度	856	829	798	684	640	675	853	840	863	820	857	873	799
令和3年度	805	841	821	832	741	679	662	635	720	702	699	791	744

2. 予防訪問介護月別実績状況(支援1、支援2)

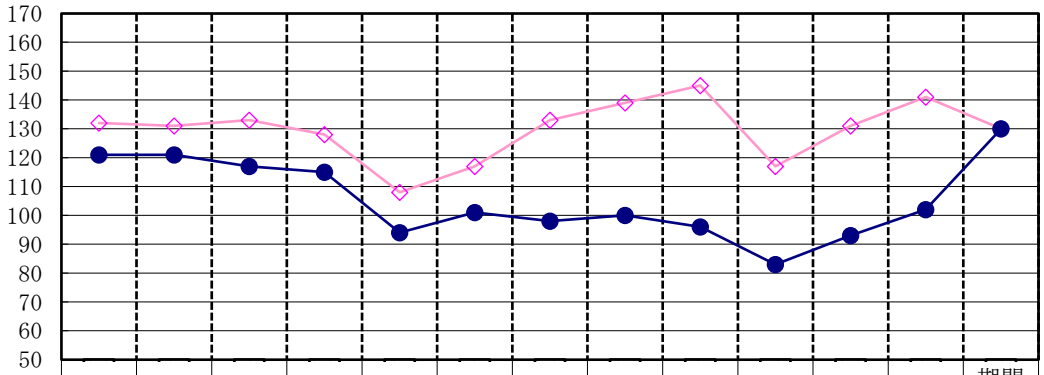
(単位：回)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画利用回数	592	592	592	592	592	592	592	592	592	592	592	592	592
令和2年度	514	488	549	544	507	545	562	521	540	464	478	537	520
令和3年度	521	517	536	522	496	511	465	541	497	457	439	517	502

3. 事業対象者月別実績状況（事業対象者利用回数のみ抜粋）

（単位：回）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	132	131	133	128	108	117	133	139	145	117	131	141	130
令和3年度	121	121	117	115	94	101	98	100	96	83	93	102	130

4. 月別利用状況（予防訪問介護事業、事業対象者含む）

月別区分	利用者数	利用状況			稼働率
		予約	キャンセル	実績	
4 月	176 人	1,509 回	62 回	1,447 回	95.9%
5 月	177 人	1,566 回	87 回	1,479 回	94.4%
6 月	182 人	1,542 回	68 回	1,474 回	95.6%
7 月	176 人	1,559 回	90 回	1,469 回	94.2%
8 月	168 人	1,537 回	206 回	1,331 回	86.6%
9 月	163 人	1,432 回	141 回	1,291 回	90.2%
10 月	166 人	1,405 回	180 回	1,225 回	87.1%
11 月	159 人	1,353 回	77 回	1,276 回	94.3%
12 月	157 人	1,381 回	68 回	1,313 回	95.1%
1 月	150 人	1,340 回	98 回	1,242 回	92.7%
2 月	147 人	1,305 回	74 回	1,231 回	94.3%
3 月	143 人	1,466 回	56 回	1,410 回	96.2%
計	1,964 人	17,395 回	1,207 回	16,188 回	93.1%
月平均	164 人	1 ,450 回	101 回	1,349 回	―

※稼働率について

訪問介護事業の予約数を 100%として、それに対して実際に利用した実績がどの程度の割合かを表します。

利用実績が 16,188 回で、予約数が 17,395 回であったため、

16,188÷17,395＝0.93061　稼働率　93.1%

5. 利用者状況の変化

月区分	新規利用者	利用中止				
		施設入所	事業所変更	死亡	その他	計
4 月	13 人	2 人	1 人	1 人	1 人	5 人
5 月	4 人	2 人	0 人	1 人	0 人	3 人
6 月	9 人	5 人	2 人	1 人	3 人	11 人
7 月	3 人	0 人	2 人	1 人	0 人	3 人
8 月	5 人	5 人	1 人	1 人	0 人	7 人
9 月	7 人	4 人	1 人	2 人	0 人	7 人
10 月	5 人	1 人	0 人	2 人	0 人	3 人
11 月	6 人	1 人	1 人	3 人	2 人	7 人
12 月	4 人	2 人	1 人	4 人	4 人	11 人
1 月	2 人	0 人	0 人	0 人	1 人	1 人
2 月	3 人	1 人	0 人	2 人	0 人	3 人
3 月	2 人	1 人	0 人	3 人	0 人	4 人
計	63 人	24 人	9 人	21 人	11 人	65 人

6. 要介護度別利用延べ回数

	事業対象者	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	1,555	4,150	2,099	3,588	1,885	1,458	1,259	1,398	17,392 回
令和 3 年度	1,241	4,096	1,923	3,171	2,127	1,588	1,459	583	16,188 回

7. 平均介護度及び平均利用回数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用回数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用回数
令和 2 年度	1.26	6.8 回	2.21	10.9 回
令和 3 年度	1.24	6.3 回	2.18	9.9 回

8. 事業報告(総括)

エビデンスに基づいた科学的介護の実践により、より質の高いサービスを提供していきます。	
取　組　事　項	① 節度ある態度を心掛け、ご利用者やご家族に気持ちよくサービスを利用していただけるようコミュニケーションスキルを身につけます。 ② 専門職として各種資格を取得し、スキルの向上を目指します。 ③ 経験や感覚ではなく、数値化した客観的評価によりケアの見直しや実績に対する分析を行います。 ④ 職員一人ひとりが自立支援・重度化防止を目的としたケアについて理解を深め実践します。
実　　績	① 常に職員間や地域住民の方への挨拶を心掛けた。 お互いの立場を理解したうえで適切なコミュニケーションが図れるよう、10月に接遇とコミュニケーションの研修を実施した。 ② 受験資格を有する職員 1 名が介護支援専門員試験を受験したが取得できなかった。 ③ サテライトの実績や利用者状況、サービス内容や困難事例について情報共有し、対応策を提案したり実績に対する分析を行った。 ④ ご利用者の自立支援・重度化防止についてサービス提供責任者で法令の勉強会や事例検討を行い、業務に活かすことができた。
課題と今後の取組	・職員間で、互いに不足する部分をフォローし合いチームプレイを意識して業務に取り組めるよう心掛ける。

災害や感染症が発生しても、サービスの提供が滞ることのないよう体制を整備します。	
取　組　事　項	① 訪問介護独自の感染症マニュアルを作成し、日常の感染症対策を徹底します。 ② マニュアルを基に災害や、感染症発生時を想定したシミュレーションを実施し、非常時に備えます。
実　　績	① 災害と感染症のマニュアル作成(見直し)のグループに分かれ、訪問介護における災害や感染症発生時、想定できることをまとめた。緊急時に使用する利用者名簿を作成した。 ② マニュアルの作成はできなかった。非常時、テレワークに切り替え、持ち出す物品などをリスト化しスムーズに対応することができた。
課題と今後の取組	・ご利用者ができる限り自宅で生活できるよう根拠に基づいた知識や介護技術を習得していく。

ICT の活用により業務の効率化を図り、働きやすい職場の環境づくりを行います。	
取　組　事　項	① 子育てや、介護をしていても無理なく働けるようワークライフバランスの充実を図ります。 ② ICT やサテライト事業の活用により、情報共有を行い効率的な訪問を組むことで生産性の向上を目指します。
実　　績	① 職員同士が声を掛け合い、業務のフォローしあうことで、育児短時間や介護休暇などの制度を活用しやすい雰囲気づくりを行った。 ② IT 環境が整備されたことで、非常時のテレワークへの移行がスムーズになった。 各種会議も ZOOM で実施できるようになったため、自宅で会議に出席することが可能になり、会議のために集合する必要がなくなった。 サテライト間の情報共有や、訪問後の記録についてもタブレットで行っており業務の効率化が図れている。
課題と今後の取り組	・職員一人ひとりが IT 操作を習得し、業務の効率化を目指す。

3 小規模多機能型居宅介護事業

1. 介護度別登録者数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0人
要支援2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1.6人
要介護1	7	7	6	6	6	6	6	8	8	8	8	8	7.0人
要介護2	6	6	5	5	5	5	5	4	4	4	5	5	4.9人
要介護3	6	6	6	6	5	4	3	3	3	3	3	3	4.3人
要介護4	1	1	1	1	2	3	3	3	3	2	2	2	2.0人
要介護5	0	0	3	3	1	0	1	1	2	2	1	1	1.3人
合 計	23	23	24	24	22	22	22	23	24	23	23	23	23.0人
稼働率	92.0	92.0	96.0	96.0	88.0	88.0	88.0	92.0	96.0	92.0	92.0	92.0	92.0%

※稼働率について

小規模多機能居宅介護事業の登録定員(25 人)を 100%とした場合の実登録者の割合を表しています。1 年間の延べ利用者数が 276 人であったことから

276 人 ÷ 300 人 ＝ 0.92　　稼働率 92.0%

(延べ利用者数)　(登録定員 25 人)

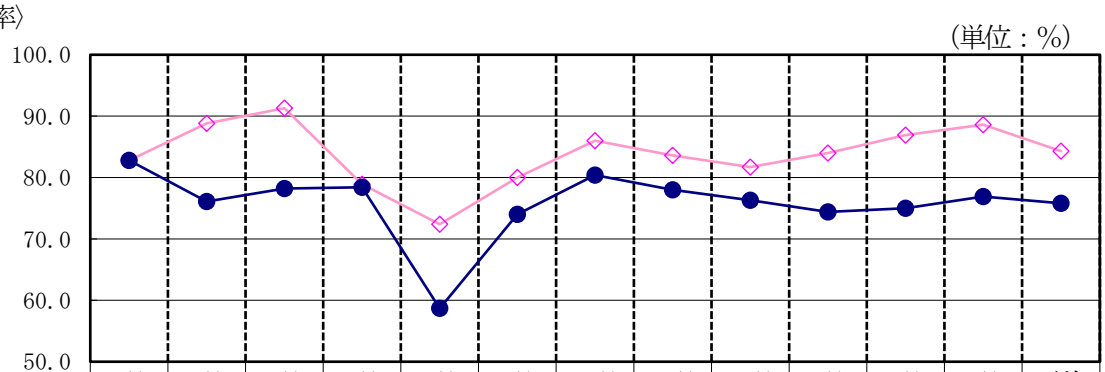
2. サービス別稼働率

(1)訪問サービス

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数(令和2年度)	13	14	13	11	13	8	12	10	9	7	8	8	11人
実利用者数(令和 3年度)	10	10	10	11	10	12	12	11	14	13	12	14	12人
延べ利用回数(令和 2年度)	281	311	365	342	291	252	269	284	312	253	256	299	293回
延べ利用回数(令和 3年度)	322	381	387	483	335	391	407	409	485	459	406	467	411回

(2)通いサービス

〈稼働率〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	82.8	88.8	91.3	78.9	72.4	80.0	86.0	83.6	81.7	84.0	86.9	88.6	84.3%
令和3年度	82.8	76.1	78.2	78.4	58.7	74.0	80.4	78.0	76.3	74.4	75.0	76.9	75.8%

※稼働率について

通いサービスの 1 日定員(15 人)を 100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

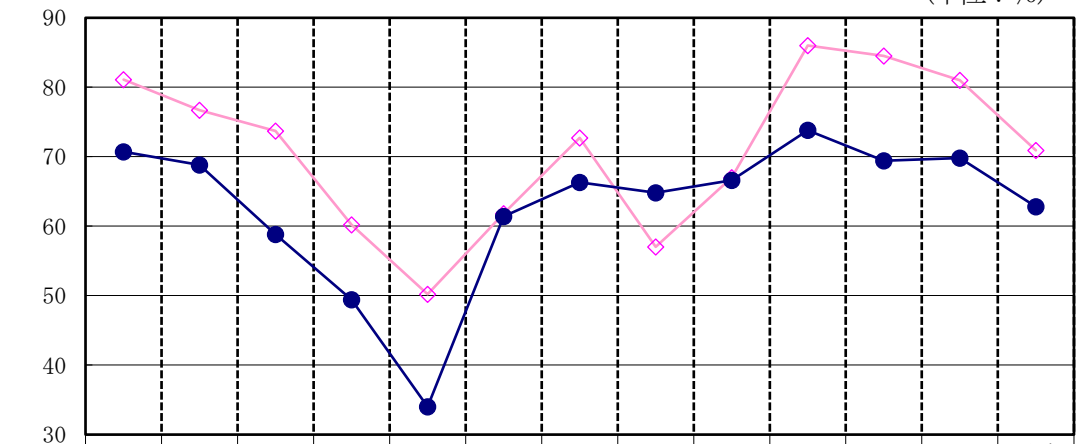
1 年間の延べ利用人数が 4,149 人であったことから

4,149 人 ÷ 5,475 人(15 人×365 日) ＝ 0.7578 稼働率 75.8%

(延べ利用人数) (定員) (実稼働日数)

(3)泊まりサービス

〈稼働率〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	81.1	76.7	73.7	60.2	50.2	61.8	72.7	57.0	67.0	86.0	84.5	81.0	70.9
令和3年度	70.7	68.8	58.8	49.4	34.0	61.4	66.3	64.8	66.6	73.8	69.4	69.8	62.8

稼働率について

泊まりサービスの 1 日定員(9 人)を 100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

1 年間の延べ利用人数が 2,063 人であったことから

2,063 人 ÷ 3,285 人〈9 人×365 日〉＝0.6280 稼働率 62.8%

(延べ利用人数) (定員) (実稼働日数)

3. 平均介護度

	要 支 援	要 介 護
令和2年度	1.31	2.16
令和3年度	1.44	2.25

4. 年間行事報告

開催日	実施行事	内　　容
4月10日	観桜会 ドライブ	・鹿瀬方面や城山公園にて桜の花を見ながら散歩し気分転換を図った。
7月28日	納涼祭	・景品が当たるゲームを行い楽しんでいただいた。
9月17日	敬老会	・慶祝者の表彰や記念撮影、ご利用者全員に記念品を贈呈しお祝いした。また、職員による余興を楽しんでいただいた。
10月24日	秋の味覚祭	・鮭のちゃんちゃん焼きや、キノコご飯など、秋を感じられる食事楽しんでいただいた。
11月3日 ～4日	ドライブ	・室谷方面や、鹿瀬方面へのドライブで紅葉を見に出かけ、気分転換を図った。
12月23日	クリスマス忘年会	・職員がサンタに扮装し、ご利用者にプレゼントを渡した。職員の余興を楽しんでいただき、おやつにはケーキを召し上がってもらった。
2月 2日	節分	・鬼に扮した職員に向けて、ご利用者に豆まきをしていただいた。人形焼きのおやつを召し上がってもらった。
3月30日	ドライブ	・外出の機会が少ないため、暖かくなった室谷方面へのドライブで、気分転換を図った。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

5. 事業報告(総括)

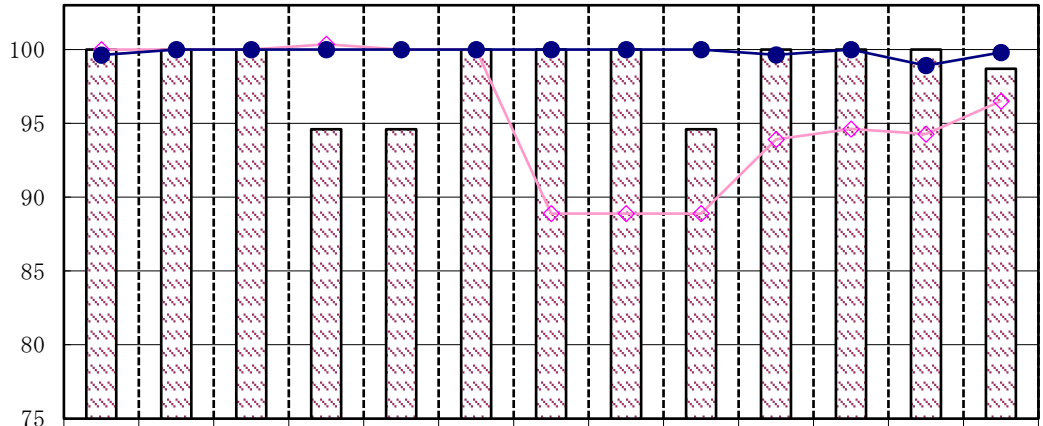
ご利用者やご家族に信頼されるサービスの提供を目指します。	
取　組　事　項	① ICT の活用を習慣化し、ご利用者状況や支援内容について、スムーズな情報共有ができるよう、体制を整えます。 ② とうかん福祉サービスの訪問介護同行研修や外部研修への参加をすることで、専門職としての知識を身につけ、根拠に基づくサービス提供に努めます。 ③ ご利用者の自立支援、重度化防止を目的とする制度を活用し、ご利用者一人ひとりの評価を行うことで、ケアの質の向上に努めます。 ③　専門職として各種資格の取得に努めます。
実　　績	① ICT 環境が整ったことで、オンラインでの会議開催や、情報伝達、会議録や予定の管理について、職員全員がスムーズに確認できるよう、取り組んだ。事業所内でも、紙ベースで行っていた、ご利用者の受診予定管理を、iPad で行うなど、ICT 化の取り組みを行い、スムーズな情報共有に努めた。 ②新型コロナウイルス感染予防のため、訪問介護同行研修を実施することはできなかったが、訪問介護の経験豊富な職員が講師となり、事業所内での研修を行った。 ③介護福福祉士資格取得のため、3 名が国家試験を受験し、1 名が合格した。
課題と今後の取組	・ICT 活用での情報共有を意識し、スムーズにご利用者ケアに繋げられるよう取り組んでいく。 ・専門職としての知識を習得するため、継続して資格取得に努める。

感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが継続的に提供できる体制を構築します。	
取　組　事　項	① 感染症予防、感染拡大防止についての取り組みの継続と、感染症が発生した場合のシミュレーションを行います。 ③　災害対策マニュアルに基づいて動けるよう訓練を行います。
実　　績	① 事業所でのゾーニングの方法について、シミュレーションを行った。また、提供するサービス別に(通い、泊り、訪問)感染症予防対策の注意点について、事業所研修を実施した。 ③　避難訓練を実施した。
課題と今後の取組	・感染症や、災害を想定した訓練の計画と実施を行っていく。

4 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	100	100	100	94.6	94.6	100	100	100	94.6	100	100	100	98.7
令和 2年度	100	100	100	100.4	100	100	88.9	88.9	88.9	93.9	94.6	94.3	96.5
令和 3年度	99.6	100	100	100	100	100	100	100	100	99.6	100	98.9	99.8

※稼働率について

認知症対応型共同生活介護事業所の 1 日定員(9 人)を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。1 年間の延べ利用日数が 3,280 日であったことから

3,280 日 ÷ 3,285 日〈 9 人× 365 日 〉 ＝ 0.99847 稼働率 99.8%

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(令和 4 年度 3 月 31 日現在)

	要支援	要介護度					平均
	2	1	2	3	4	5	
令和 2 年度	0	2	4	2	0	1	2.3
令和 3 年度	0	2	3	1	2	1	2.7

3.年間行事報告

開催日	実施行事	内　　容
4月	花　見	・角神へ花見に出かけ、注文した弁当（泉魚屋）を事業所前にセットしたテーブルで食べた。
5月	母の日	・ドーナツ作りを行い、ビンゴゲームをして楽しんだ。
6月	プリンアラモード作り	・ご利用者毎に好きなフルーツを盛り付け、オリジナルプリンアラモードを作り召し上がっていただいた。
7月	七夕会	・短冊に願を書き、歌を唄いながら、笹に飾り付けを行った。
8月	GH オリンピック	・メダル獲得に向け競い合いながら楽しくゲームを行った。
9月	敬老会	・慶祝者をお祝いし、皆様の疫病退治のため職員による獅子舞踊りで楽しんでいただいた。
10月	味覚祭 ラーメン作り	・野菜をふんだんに使った豚汁、鮭のちゃんちゃん焼き、モンブランを食べ秋の味覚を楽しんだ。 ・ご利用者から希望の多かったラーメンを作り各自で好きなトッピングを好きな量だけ盛り付け召 し上がった。
11月	紅葉狩り	・豊実方面まで出掛け、秋の散策と紅葉を楽しんだ。
12月	クリスマス会 忘年会	・プレゼントをお渡しし、余興として職員のハンドベル演奏をお聴きいただき、クリスマスケーキを食べて楽しんでいただいた。
1月	小正月団子さし	・昔を思い出しながら団子さしを行い、ゴルフやボーリング、カラオケで楽しい時間を過ごした。
2月	雛祭り会	・お内裏様とお雛様の顔抜きちぎり絵を作り、お雛様の顔から顔出しで写真撮影を行った。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

4. 事業報告(総括)

自立支援・重度化防止を意識し、認知症の方へ適切な対応ができる職員を目指します。	
取　組　事　項	① ご利用者やご家族に安心を与えられるよう、状況に応じた適切な声掛けや対応ができるよう心掛けます。 ② 認知症実践者研修など各外部研修への参加や内部研修を計画的に実施し、認知症ケアの専門職としてスキルの向上を図ります。 ③ 根拠に基づき、科学的に効果が裏付けられたケアや環境作りを行うことで質の高いサービスを提供します。 ④ 介護福祉士資格など各種資格取得できるよう努めます。
実　　績	① 毎月の事業所内会議で適切な声掛けや対応について振り返りや確認を行った。 ② 積極的に WEB 研修や外部研修に参加し、個々のスキルアップを図るとともに、内部で復命を行い全職員で知識の共有を図った。 ③ 根拠に基づく考えが定着するよう、情報交換や共有時の発言を意識して行うよう環境作りを行った。 ④ 認知症基礎研修に1名、認知症実践者研修に1名、認知症介護実践リーダー研修1名が参加し終了証を受け取り、1名が介護福祉士資格を取得することができた。
課題と今後の取組	・今後も認知症ケアの専門職として、各種研修に参加し認知症についての知識を深め実践していく。

認知症の進行を緩和し、安全で快適な暮らしができる環境づくりに努めます。	
取　組　事　項	① ご利用者の日常生活が心穏やかで豊かなものになるよう、対人援助スキルを磨きます。 ② 会議や情報共有に ICT を活用し業務の改善を図るとともに、介護現場における ICT 化や介護テクノロジー機器の導入について検討を行い、介護サービスの生産性向上を目指します。
実　　績	① 対人援助技術を身に付けるため、定期的に職員面談を実施し指導を行った。 ② タブレットシステムを1台追加導入し、機器を活用してサービスの生産性向上に向けた取り組みを行った。また、会議においては、オンライン形式に切替え、感染症予防及び会議のための移動にかかる時間を削減することができた。
課題と今後の取組	・全職員が更なる知識の習得と質の向上を図るため、研修や勉強会に積極的に参加し、日々の支援に活かしていく。

感染症や災害発生時でもサービスが継続的に提供できる体制を構築します。	
取　組　事　項	①　感染症に対する知識を身に付け、万が一に備えシミュレーションを行います。 ②　災害時には地域との連携が図れるよう、地域の方と一緒に訓練を行います。
実　　績	①　感染症発生に備え PPE 着脱の研修や居室内ゾーニングのシミュレーションを行った。 ②　地域との連携が図れるような取り組みは実施できなかった。
課題と今後の取組	・今後連携が図れるよう体制の構築と訓練への参加を実現できるよう取り組みを行う。

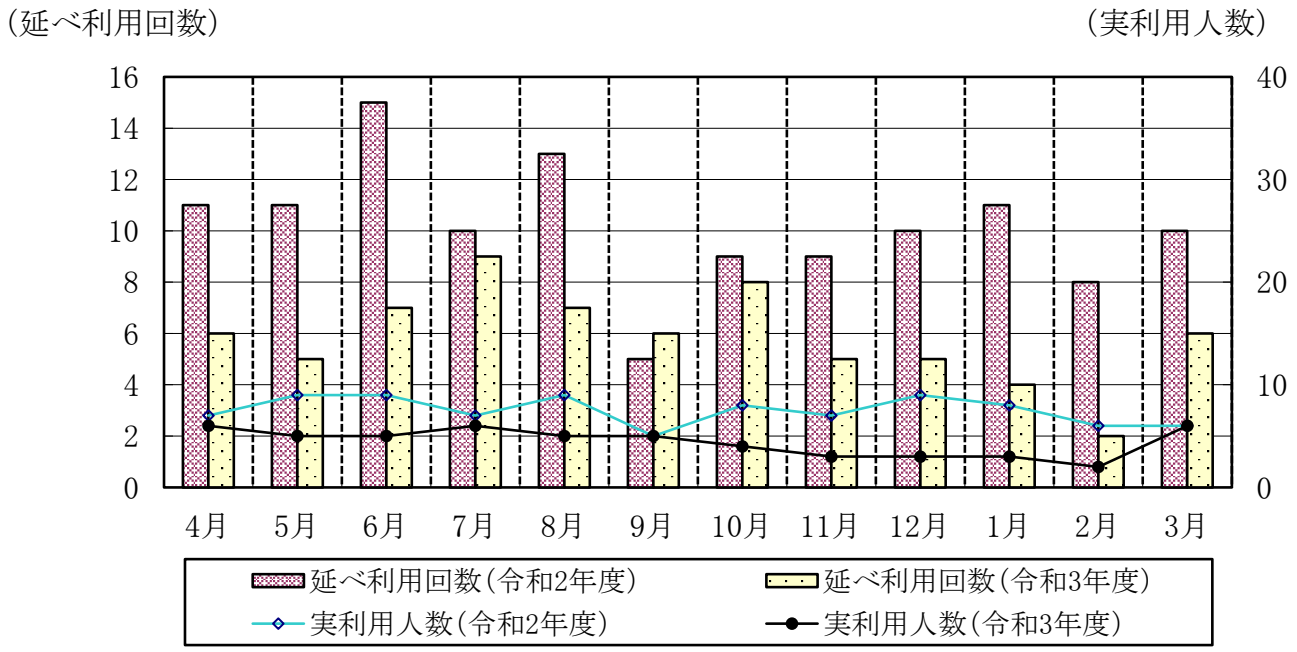
5 障害福祉サービス事業

1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	14	13	14	14	14	15	14	15	15	16	16	15	175人
延べ利用回数	229	222	213	220	210	227	211	174	172	165	154	156	2,353回

6 まごの手サービス （介護保険外事業）

1. まごの手サービス 事業利用状況



月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数（令和2年度）	7	9	9	7	9	5	8	7	9	8	6	6	90人
実利用人数（令和3年度）	6	5	5	6	5	5	4	3	3	3	2	4	51人
延べ利用回数（令和2年度）	11	11	15	10	13	5	9	9	10	11	8	10	122回
延べ利用回数（令和3年度）	6	5	7	9	7	6	8	5	5	4	2	6	70回

2.「見守り確認」安心サービス利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数	10	10	10	9	9	8	6	5	5	4	5	3	84人
延べ利用回数	232	294	216	205	225	200	160	143	113	130	106	112	2,136回

3. 事業報告(総括)

独居やご家族の就業によって一人でいる時間の不安や心配を軽減します。	
取　組　事　項	① 介護保険サービスと見守り安心確認サービスを組み合わせて利用することで、在宅生活の継続が可能であることを提案します。
実　　績	① 見守り安心確認サービスはLINEを導入し、離れて生活するご家族や就労で不在にしているご家族にリアルタイムで訪問時の様子をお伝えすることができた。
課題と今後の取組	・何かあった時、見守り確認サービスを柔軟に活用することで利用者や家族が安心した自宅での生活を続けられるよう、家族とのコミュニケーションや対応について認識の統一を図っていく。

在宅サービスを利用中に家族が対応できない受診介助を行い、家族の負担軽減を図ります。	
取　組　事　項	① 在宅サービス事業所と情報の共有を図り、スムーズな受診介助を行います。
実　　績	① 利用中のショートステイでの様子や、医療機関に伝達すべきことについて、受診の前に確認を行い連携ノートに記載してもらうことでスムーズに受診介助が行えた。
課題と今後の取組	・受診時の様子や受診結果の報告を利用中のショートステイに行っているが、ご家族への連絡について LINE の導入を検討する。

7 ケアセンターどんぐり 研修報告

1. 研修種別の内訳

項　　目	内　　容	主 な 研 修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	介護福祉士実務者研修
		認知症基礎研修
		認知症実践者研修
		認知症実践リーダー研修
		安全運転管理者等講習会
		指定障害サービス事業所集団指導
		在宅介護サービス提供者に向けた高齢者栄養講座
		喀痰吸引等研修（基本研修）
		喀痰吸引等研修（演習）
		サービスの提供のプロセスの理解
		阿賀町自立支援型地域ケア個別会議

2. 内部研修参加状況

開　催　日	研　修　名	対象職員（人）	参加者数（人）	出席率（%）
5 月	高齢者の栄養と口腔ケア	54	54	100
6 月	腰痛予防	54	54	100
8 月 16 日 8 月 17 日 8 月 18 日 8 月 19 日 8 月 20 日 8 月 23 日 8 月 24 日 8 月 25 日	救急法	52	52	100
9 月	法令順守、人権擁護、個人情報保護、虐待・身体拘束について	53	53	100
10 月	吐物処理 火災水害時の対応	53	53	100
11 月	接遇・コミュニケーション	54	54	100
12 月	交通講話	54	54	100
1 月	法令順守	56	56	100
2 月	認知症について	56	56	100

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

・新型コロナウイルス感染症の影響で研修の中止や研修の縮小があり参加することができないことがあった。資格取得に繋がる研修については、積極的に参加することができスキルの向上に繋げることができた。

② 内部研修

・新型コロナウイルス感染症予防対策のため職員が集まる研修は行えなかったが、資料配布や動画閲覧での研修方式にてスキルの向上及び理解を深めることができた。

8 ケアセンターどんぐり 災害対策

1. 緊急連絡網

・4月1日付けで、緊急連絡網作成

2. 防災伝達・避難訓練

催月日	訓 練 内 容	参加者数
11 月 25 日	避難訓練 ・新型コロナウイルス感染対策を行い、阿賀町消防署員立ち会いのもと、職員、ご利用者参加による避難訓練を実施した。	35 名 (職員) 37 名 (利用者)
3 月 18 日	夜間想定避難訓練 ・新型コロナウイルス感染症予防のため阿賀町消防署員立ち会いなしで、各事業所で職員、ご利用者参加による避難訓練を実施した。	29 名 (職員) 38 名 (利用者)

3. 消防設備点検

開催月日	点 検 内 容
6月4日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行った。
その他	・防災委員会で消防用設備等自主点検を実施。

4. その他

・新型コロナウイルス感染症予防のため、阿賀町消防本部による立ち入り検査未実施。
消防署より消防設備点検の報告等助言いただいた。

9 ケアセンターどんぐり 苦情受付・対応報告

苦　　情

＜小規模多機能事業所＞

1. 利用者ご家族より

父の通いの日を変更してあるのに、近所の方より母が「今日どんぐりさんが迎えに来ていた。」と言われた。情報の共有はどうなっているのか。間違って迎えに来たのは仕方ないが、近所の人を巻き込むのだけはやめてほしい。

・ご家族へ情報が共有できず、予定管理ができていなかったことについて謝罪する。
・情報共有のための確認方法を統一し、システムの掲示板を活用することとした。
・ご本人が不在のときは、速やかに事業所に連絡し確認することを全職員に徹底するよう伝えた。

＜要因:サービスの質＞

＜短期入所生活介護事業所＞

1. ご利用者家族より

退所後持ち帰った荷物の中に使用済みのリハビリパンツが入っていました。
これは、どうにもいただけないです。人なので忘れたり、間違えたりすることはありますが、今後このようなことがないように皆さんで問題を共有してください。

・相談員に話があると報告を受け電話で話を伺い謝罪を行った。
・全職員で問題を共有するために会議で改善策の検討を行なった。
・退所時、荷物をカバンに入れるときは、物品チェック表を基に、入念に確認するよう徹底を行った。

＜要因:サービスの質＞

苦情の発生件数

事業	件数
訪問介護	0件
短期入所	1件
小規模多機能	1件
グループホーム	0件
合計	2件

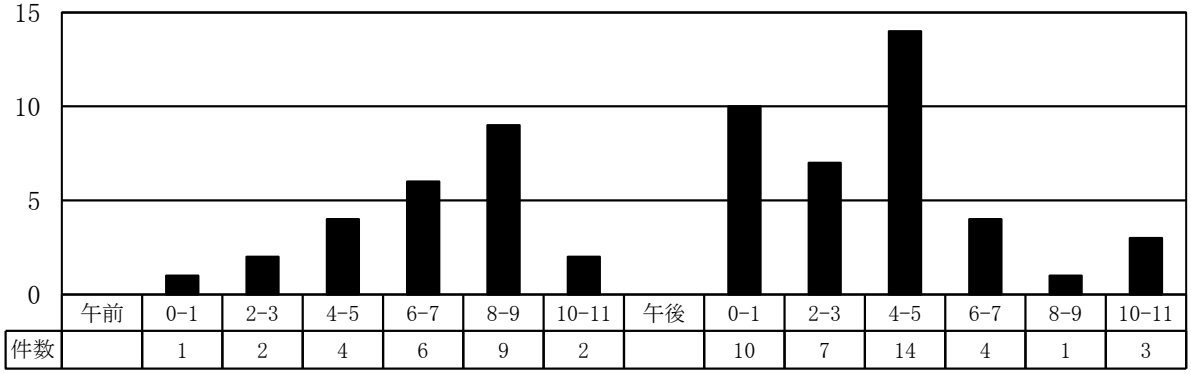
苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0件
職員の態度	0件
サービスの質	2件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
合計	2件

10 ケアセンターどんぐり 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数

（単位：件数）



〈発生件数合計 63 件〉

2. 場所別発生件数

発 生 場 所	件 数
居室	15 件
ホール	25 件
トイレ	7 件
廊下・玄関	3 件
浴室	3 件
施設外	1 件
利用者自宅	3 件
その他	6 件
合計	63 件

3. 内容別発生件数

事 故 内 容	件 数	阿賀町へ報告
転倒・転落	16 件	2 件
裂傷	8 件	1 件
打撲・皮下出血	7 件	0 件
チューブ抜去	0 件	0 件
無断外出	1 件	1 件
私物紛失	7 件	0 件
異食・誤飲	2 件	0 件
誤薬・服薬忘れ	10 件	2 件
車輌事故	1 件	0 件
その他	11 件	1 件
合計	63 件	7 件

4.事故等発生状況総括

・事故発生件数については、令和2年度の91件から令和3年度は64件と減少している。事故の内容については、転倒・転落が16件と最も多く、次いで誤薬・服薬忘れが10件となっている。発生件数は減少しているものの、転倒や服薬関連の事故については、類似した状況での事故が続いている。今後、事故検討後の改善策の実施を徹底すると共に、改善策の評価・再検討を実施し、事故発生防止に取り組んでいく。

・今後も研修等を通じて、職員の事故防止に対する意識向上に取り組んでいく。

Ⅴ　令和３年度社会福祉法人東蒲原福祉会

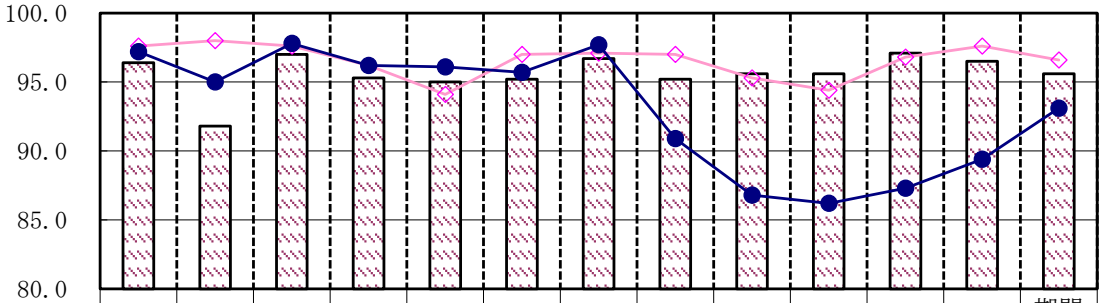
ほっとサポートとこなみ　事業報告

	頁
１．障害者共同生活援助事業（グループホーム）	７４
２．障害者短期入所事業（ショートステイ）	７７
３．障害者生活介護事業	７９
４．就労継続支援Ｂ型事業	８２
５．放課後等デイサービス事業	８５
６．ほっとサポートとこなみ研修報告	８８
７．ほっとサポートとこなみボランティア活動状況	９０
８．ほっとサポートとこなみ災害対策	９１
９．ほっとサポートとこなみ苦情受付・対応報告	９２
10．ほっとサポートとこなみ事故等発生状況報告	９３

1　障害者共同生活援助事業(グループホーム)

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	96.4	91.8	97.0	95.3	95.0	95.2	96.7	95.2	95.6	95.6	97.1	96.5	95.6%
令和2年度	97.6	98.0	97.6	96.2	94.1	97.0	97.1	97.0	95.3	94.4	96.8	97.6	96.6%
令和3年度	97.2	95.0	97.8	96.2	96.1	95.7	97.7	90.9	86.8	86.2	87.3	89.4	93.1%

※稼働率について

共同生活援助事業の1日定員(11人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,737日であったことから

3,737日　÷　4,015日〈11人　×　365日〉　＝　0.9307　稼働率　93.1%

(延べ利用日数)　　(定員)(実稼働日数)

2. 障害区分別入所者数(令和4年3月31日現在)

	障害区分						平均
	1	2	3	4	5	6	
令和2年度	0	4	3	3	1	0	3.1
令和3年度	0	4	3	2	1	0	3.0

3. 年間行事報告

開催日	実　施　行　事	内　　容
12月24日	クリスマス会	・各ホームで、クリスマスメニューの食事を行い、入居者にプレゼントを配った。
2月3日	節分	・各ホームで、食事をちらし寿司とした。豆まきは行わず各自に配った。

4. 事業報告(総括)

感染症予防を継続的に行いながら、ご利用者一人ひとりの過ごし方や目標に向けた生活が安心して送れるよう支援します。	
取　組　事　項	① 法人の定める感染症予防対策の徹底と感染症に対する職員の意識向上を図ります。 ② ご利用者個々の希望する生活や社会参加が可能な限り送れるよう新しい生活様式に合わせた支援をします。
実　　績	① 定期的に感染症予防対策の確認を行うことで、職員の感染症への意識を高めることができた。 ② 各ホーム単位での集団行動を減らし、小人数から個々での外出等の支援を行った。
課題と今後の取組	・ 引き続き、新しい生活様式に対応した関わり方や社会参加への支援の仕方を検討し実施します。

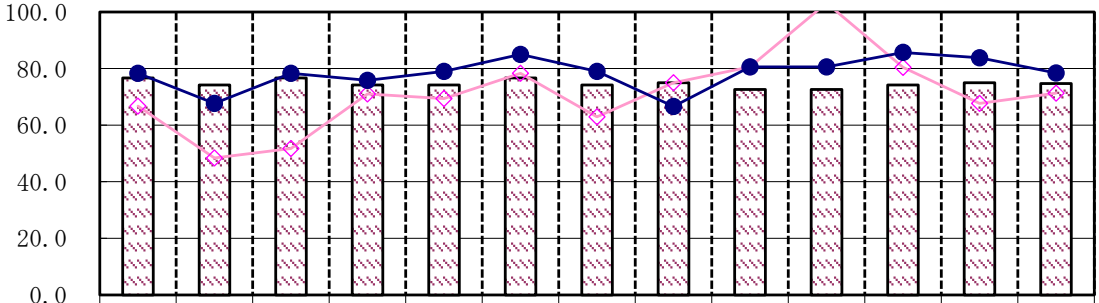
日々のコミュニケーションおよび相談を重視し、ご利用者とのより良い関係を築き生活の質の向上に繋げます。	
取　組　事　項	① ご利用者一人ひとりの要望や相談を積極的に聞き、職員間で情報共有と意識統一を図ります。 ② 休日や余暇時間の過ごし方をご利用者と一緒に考え、楽しみや希望に沿える過ごし方ができるよう支援します。
実　　績	① 業務日誌、職員間連絡ノートを活用するほか、会議や始業前ミーティングなどで職員間の情報共有を図った。 ② 日々のコミュニケーションを通し、休日や余暇についての希望を聞き出してはいたが、具体的な計画を話し合うことが出来ず実行できるまでに至らなかった。
課題と今後の取組	・ 引き続き日々の生活での会話や関わりを通し、希望や感じていることなどが引き出せるよう支援します。 ・ 希望や要望を実行できるよう職員間での検討を行います。

ＩＴ・ＩＣＴの活用を検討し、業務の効率化・職員間の連携や研修、ご家族との情報伝達などに取り組みます。	
取　組　事　項	① 職員間の情報伝達･情報の共有の効率化を図るためにインターネットや通信機器など ICT の活用を進めます。 ② 利用者の障害の特性に合った支援が行えるよう、生活支援員や世話人の勉強会を実施するとともに、ＩＴを活用した研修の機会を増やすことで職員のスキルアップを図ります。
実　　績	① 職員間の伝達や、とこなみ⇔東蒲の里間の連絡等に、伝達ツールを活用し行き違いのないようにした。 帰省時のご家族との会話や定期的な連絡を行い、情報の発信を行った。 ② 会議等で初心に返り、「支援員・世話人の役割とは」について話し合いを行う機会をもうけた。
課題と今後の取組	・ グループホームでの様子を定期的にお知らせできるよう、方法を再度検討し実施します。 ・ 生活支援員や世話人に必要なスキルを身に付けられるよう勉強会や研修への参加を検討し実施します。

2 障害者短期入所事業(ショートステイ)

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	76.7	74.2	76.7	74.2	74.2	76.7	74.2	75.0	72.6	72.6	74.2	75.0	74.7%
令和2年度	66.7	48.4	51.7	71.0	69.4	78.3	62.9	75.0	80.6	103.2	80.4	67.7	71.3%
令和3年度	78.3	67.7	78.3	75.8	79.0	85.0	79.0	66.6	80.6	80.6	85.7	83.8	78.4%

※稼働率について

短期入所の 1 日定員(2 人)を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 572 日であったことから

572 日 ÷ 730 日〈2 人 × 365 日〉 ＝ 0.7835 稼働率 78.4%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 障害区分別延べ利用日数

	児 童			成 人						計
	1	2	3	1	2	3	4	5	6	
令和 2 年度	0	4	28	0	40	221	135	92	0	520 日
令和 3 年度	0	0	106	0	100	146	88	132	0	572 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	10	10	10	11	10	10	9	11	11	12	12	12	10.7 人
延べ利用日数	47	42	47	47	49	51	49	40	50	50	48	52	47.7 日

4. 平均障害区分及び平均利用日数

	児 童		成 人	
	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数
令和 2 年度	3	0.9 日	3.4	4.5 日
令和 3 年度	3	8.8 日	3.5	4.5 日

5. 年間行事報告

行事については障害者共同生活援助部門と合同で開催した。

6. 事業報告(総括)

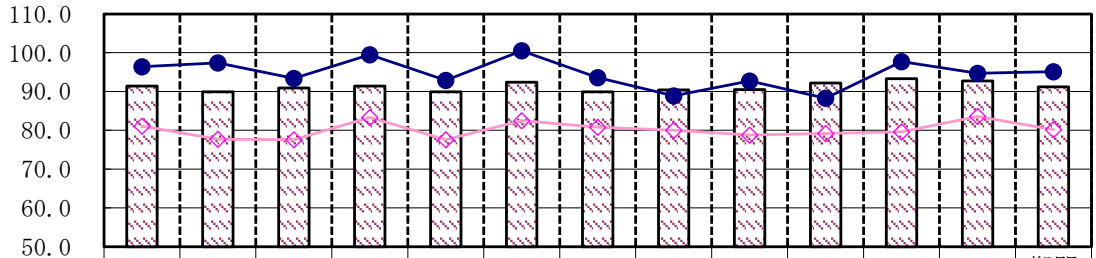
ご利用者、ご家族の要望を伺いながら、自宅で過ごす時と変わらない生活が送れるよう支援します。	
取　組　事　項	① 自宅での生活リズムや習慣を理解し、利用時も同じような生活リズムで過ごせるよう支援します。 ② 感染症について、ご利用者・ご家族への注意喚起を行います。
実　　績	① 新規利用者についてご家族やご本人、関係機関から話を聞き、自宅での習慣などが宿泊時にも行えるよう職員間で情報共有を行い実施した。 ② 法人の感染症予防対策に基づき、ご家族への注意喚起を行った。
課題と今後の取組	・ 今後も、自宅での習慣が短期入所でも取り入れられるよう検討し実施します。

日中活動事業所や関係機関と情報の共有を図り、利用ごとに変化があっても柔軟に対応が出来るよう支援します。	
取　組　事　項	① 利用前に状況の確認を行い、状態に合わせた対応が行えるよう支援します。 ③ 緊急的利用が必要となった方への対応も速やかに行えるよう相談員や関係機関と情報共有、受け入れ可能状況のお知らせなど定期的に行い体制を整えます。
実　　績	① 新規利用者の他、継続利用されている方についても定期的に情報を確認し、変更があればその都度対応を行った。 ② 緊急での利用希望に対し、関係機関と調整を行いスムーズに対応をすることができた。
課題と今後の取組	・ 定期的に状態確認を行い変更があればスムーズに対応が行なえるよう検討します。

3 障害者生活介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	91.4	89.9	90.9	91.4	89.9	92.4	89.9	90.4	90.5	92.2	93.3	92.7	91.2%
令和2年度	81.1	77.7	77.6	83.3	77.6	82.5	80.8	80.0	78.8	79.2	79.6	83.6	80.2%
令和3年度	96.4	97.4	93.4	99.5	92.9	100.5	93.6	88.9	92.7	88.3	97.7	94.7	95.1%

※稼働率について

生活介護事業の 1 日定員(9 人)を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 2,191 日であったことから

2, 191 日 ÷ 2, 304 日〈9 人 × 256 日〉 ＝ 0.9509 稼働率 95.1 %

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分						計
	1	2	3	4	5	6	
令和 2 年度	0	304	829	1,035	405	117	2,690 日
令和 3 年度	0	371	480	582	591	167	2,191 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	15	15	15	15	15	15	13	14	13	14	15	15	14.5 人
延べ利用日数	191	184	185	197	184	199	177	176	167	159	176	196	182.6 日

4. 平均障害区分及び平均利用日数

	成 人	
	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数
令和 2 年度	3.70	13.72 日
令和 3 年度	3.86	12.59 日

5.年間行事報告

開催日	実 施 行 事	内　　容
12 月　24 日	クリスマス会	・クリスマスランチを楽しみ、一人ひとりにプレゼントを渡した。
3 月　16 日	感謝祭	・昼食に仕出し屋から弁当を取り、ケーキを食べながら1年の振り返りや来年度やりたいことなどを話した。

6. 事業報告(総括)

ご利用者が安心して通所できるよう、感染症の予防に努めます。	
取　組　事　項	① 毎日、検温を行い、体調不良の早期発見に努めます。また、定期的に事業所内の換気や消毒を行います。 ② 利用者に体調不良者が出た場合には、早急に関係機関に連絡を行い、他ご利用者に体調の異常がないか確認します。
実　　績	① 毎日、朝・昼の検温と、定期的に事業所の換気、消毒を行なった。 ② 他事業所と連絡を取り、状況確認を行ないながら、お休みしなければならないということがないように取り組んだ。
課題と今後の取組	・ 感染症予防に取組みながら、今後もご利用者にあった活動内容の提供を行います。

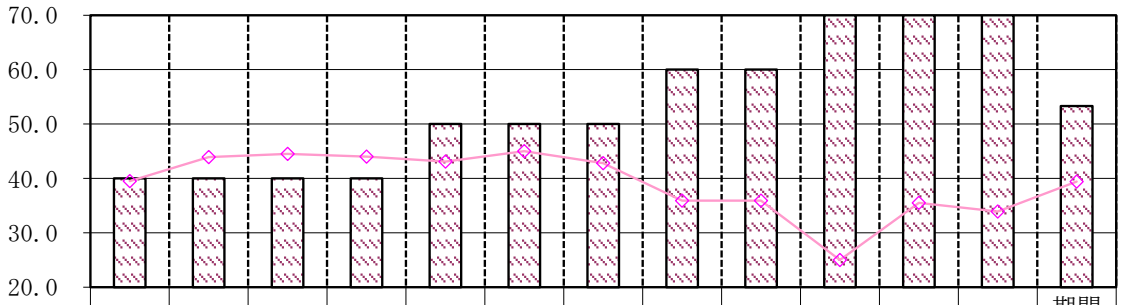
災害等の発生時も事業を継続できるよう体制を整備します。	
取　組　事　項	① 営業時間内の災害発生時には利用者の安全を最優先し、家族や事業所に送り届けられるよう連絡や調整を行います。 ② 職員間で災害時のシミュレーションを行い、災害マニュアルの見直しを行うとともに、マニュアルの周知を行います。 ③ 防災備蓄品の点検や避難訓練を定期的に行います。
実　　績	① 大雨の際に、ご利用者の安全を考え、送迎時間を早める帰宅調整を行なった。 ② ミーティング時に職員間でマニュアルの確認を行なった。 ③ 11月と3月に避難訓練を行なった。
課題と今後の取組	・ 災害が起きた際の対応が課題であり、今後は連絡先の優先順位を決めて行きます。

ＩＴ・ＩＣＴを活用し、事業の効率化を図るとともに職員のスキルアップを図ります。	
取　組　事　項	① 連絡帳を利用されている方に、SNS 等の利用が可能か確認を行います。利用が可能なご家族には SNS を活用した迅速な情報伝達に努めます。 ② 日常的な課題に対し、職員間で情報を共有・検討を行い、その課題を解決する一連の流れの中で職員の専門性を高めます。
実　　績	① 利用者の家族に高齢な方が多く、情報伝達が迅速に回らないと判断したため、SNS を活用しなかった。 ② 利用者の日常的な課題の情報共有を行ない、対応を検討し、専門性を高めることができた。
課題と今後の取組	・ 今後、連絡帳の必要性を含め、次年度に継続して検討します。

4 就労継続支援Ｂ型事業

1. 施設利用稼働率

（単位：％）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	40.0	40.0	40.0	40.0	50.0	50.0	50.0	60.0	60.0	70.0	70.0	70.0	53.3%
令和3年度	39.5	43.9	44.5	44.0	43.1	45.0	42.8	35.9	35.9	25.0	35.5	33.9	39.4%

※稼働率について

就労継続支援Ｂ型事業の１日定員（10 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

１年間の延べ利用日数が 984 日であったことから

984 日　÷　2,510 日〈10 人　×　251 日〉　＝　0.3936　稼働率 39.2%

（延べ利用日数）　　（定員）（実稼働日数）

2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分						計
	1	2	3	4	5	6	
令和３年度	0	235	531	145	73	0	984 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	4	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4.6 人
延べ利用日数	83	79	98	88	95	99	90	79	79	45	71	78	82 日

4. 作業収入及び支払い報酬

相手先	作業内容	金額
東蒲原福祉会	ベランダ清掃、車輌洗車、車いす清掃等	110,000 円
山から株式会社 コンビリー	コンビリー店内掃除、紙袋作り、グラノーラ袋入れ、阿賀の里トイレ掃除	673,550 円
長野ゴム工業株式会社	ゴムのバリ取り	3,300 円
作業収入計 ･･･①		**786,850 円**
支出	材料費等の経費	13,943 円
	消費税	33,500 円
経費支出計 ･･･②		**47,443 円**
収支差額(支払工賃原資) ･･･③＝①-②		**739,407 円**
月別実利用者数計 ･･･④		**55 人**
平均工賃 ③÷④ ※端数切捨		**13,443 円**

5. 年間行事報告

開催日	実 施 行 事	内　　容
12 月 25 日	1 年の労を労う会	・ご利用者より、今年度頑張った事と次年度頑張りたいことを皆さんの前で発表してもらった。

6. 事業報告(総括)

ご利用者の働く意識を尊重しながら、作業への意欲向上と工賃の向上を目指します。	
取　組　事　項	① ご利用者の作業能力に合わせて作業を細分化し、作業効率の向上を図ります。 ② ご利用者のニーズや作業能力の把握に努め、継続して作業に取り組めるように努めます。
実　　績	① ご利用者の作業能力をアセスメントし、得意な作業を行なってもらうことで、作業の効率が上がった。 ② 新しい仕事を行う際には、利用者に確認を行ない、作業を開始した。また、開始から半年間は毎月作業内容についてご利用者と話合いを行なった。
課題と今後の取組	・ ご利用者の将来を考え、将来に活かせる作業内容を検討します。

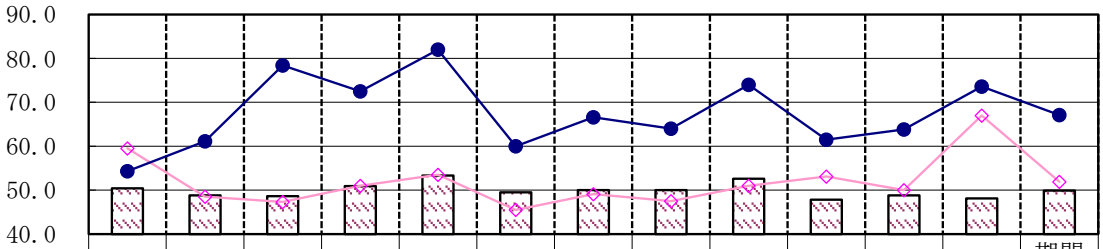
ご利用者個々の心身の健康状態を常に把握するとともに、日常生活を送るうえでの必要な指導や援助を行います。また、自立した地域生活が送れるよう支援を行います。	
取　組　事　項	① 感染症の情報や対策を事業所全体で共有することで、感染症の予防に努めます。 ② ご利用者に感染症予防を身に付けてもらえるように、個々に合わせた行動から予防までの流れをマニュアル化します。
実　　績	① 感染症が流行している時には、休みの日の予定を聞き取り、外出予定だった際には、控えるようお願いをした。 ② 昼食を購入する際や出掛ける際には、ご利用者自身で消毒を行なえるように徹底した。
課題と今後の取組	・ ご利用者に分かりやすく、感染症に対しての予防方法を伝えていきます。

ＩＴやＩＣＴの活用に取り組みます。	
取　組　事　項	① 施設内外での作業において、職員間の連携やグループホーム等との連携がスムーズにできるよう、IT、ICT の活用を進めていきます。
実　　績	① 携帯電話やタブレットを使用したが、作業中のため連絡に気付かないことがあり、スムーズに連携を図ることができなかった。
課題と今後の取組	・ 今後もスムーズに連携が取れるように検討を行ないます。

5 放課後等デイサービス事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	50.4	48.8	48.6	50.9	53.3	49.5	50.0	50.0	52.6	47.8	48.8	48.1	49.9%
令和2年度	59.5	48.5	47.3	51.0	53.5	45.5	49.1	47.5	51.0	53.1	50.0	67.0	51.9%
令和3年度	54.3	61.1	78.4	72.5	82.0	60.0	66.6	64.0	74.0	61.5	63.8	73.6	67.1%

※稼働率について

放課後等デイサービスの１日定員（10 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が 1,618 日であったことから

1,618 日　÷　2,410 日〈10 人　×　241 日〉　＝0.6713　稼働率　67.1%

（延べ利用日数）　（定員）　（実稼働日数）

2. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	9	10	11	14	14	10	8	10	13	12	10	13	11.1 人
延べ利用日数	114	110	155	145	164	120	140	128	148	117	115	162	134.8 日

3. 平均障害区分及び平均利用日数

	児　童
	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和２年度	10.85 日
令和３年度	12.07 日

4. 年間行事報告

開催日	実 施 行 事	内　　容
10 月 29 日	ハロウィン	・庭にお菓子をぶら下げてくれる地域の方宅へ伺い、お菓子を頂いて来た。
12 月 24 日	クリスマス会	・午後から、100 円均一で自分の欲しい物を購入し。プレゼントとした。
その他	・感染症対策を行いながら、長期休みの昼食づくりを実施した。	

5. 事業報告(総括)

保護者が安心してサービスを利用していただけるよう、感染症予防に努めます。	
取　組　事　項	① 法人の定める感染症予防対策の徹底と、感染症に対する職員の意識向上を図ります。 ② 学校や近隣市町村を含めた地域の感染症発生状況の把握を行い、感染症発生時には予防対策の強化を行います。 ③ 子どもたち一人ひとりに合わせた伝え方、やり方で感染症予防を実施します。
実　　績	① 感染症予防対策について、職員間で繰り返し話すことで感染症に対する意識付けを行った。 ② 学校への送迎時等に感染状況の確認を行い、感染症発生時には密を避けるよう机の配置や活動時の配置を変更し、消毒と換気を徹底した。 ③ 机の配置の変更、机へのマークなどを付けて、子どもたちに分かりやすく表示して感染症予防に努めた。
課題と今後の取組	・ 引き続き感染症予防対策を行い、安心してサービスを利用していただけるように努めます。

災害等の発生時も事業を継続できるよう体制を整備します。	
取　組　事　項	① 災害発生時には、子どもたちの安全を最優先し、安全に保護者に送り届けられるよう対策を講じるとともに、保護者や関係機関との連絡調整を行います。 ② 職員間で災害時のシミュレーションを行い、災害マニュアルの見直しを行うとともに、マニュアルの周知を行います。 ③ 防災備蓄品の点検や避難訓練を定期的に行うとともに、保護者への連絡訓練を学校やご家族の意見を聞きながら検討します。
実　　績	① 学校、保護者と連絡を取り合い、通行止めにより帰宅できない児童を自宅まで送り届けることができた。 ② 訓練時、子どもたちには伝えず非常ベルを鳴らすことで、実際の災害時の子どもたちの様子を把握する事が出来たが、マニュアルの見直しには至らなかった。 ③ 定期的に避難訓練を行った。保護者への連絡訓練は引き続き検討して行く。
課題と今後の取組	・放課後等デイサービス独自のマニュアル作成に向け検討を行います。

ＩＴ・ＩＣＴの活用を検討し、業務の効率化を図るとともに職員のスキルアップやご家族との情報伝達などに取り組みます。	
取　組　事　項	① 近隣学校や関係機関の ICT化についての情報収集を行い、子どもたちにとって有効（有益）なIT機器の使用について検討します。 ② SNS等を活用し事業所の広報を行います。 ③ 障害の特性に合った支援が行えるよう、職員の勉強会を実施するとともに、ITを活用した研修の機会を増やすことで職員のスキルアップを図ります。
実　　績	① 各学校のタブレット授業の現状を把握した。 ② 公式LINEで保護者への連絡情報の発信を開始した。 ③ 研修開催日時との調整が出来ず研修への参加が出来なかった。子どもたちの状態を職員間で話し合うことで、個々の特性や課題への対応について共有を図り支援を統一することができた。
課題と今後の取組	・ SNS、ＩＴ機器の活用ができるよう勉強会を行い、職員のスキルアップを図ります。

6 とこなみ研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項　　目	内　　容	主 な 研 修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	新型コロナウィルス感染症拡大防止のための基本所作研修
		新型コロナウイルス感染症予防研修(ウェブ)
		安全運転管理者等講習
		食品衛生管理者研修
		サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修

2. 内部研修参加状況

開　催　日	研　修　名	対象職員（人）	参加者数（人）	出席率（%）
5月	・感染症、食中毒予防について ・疾患、ご利用者の緊急対応研修 ・危険予知トレーニング	58	56	97
6月	・口腔、栄養、褥瘡ケアについて ・腰痛予防について ・身体拘束について ・危険予知トレーニング	58	57	98
8月16日 8月17日 8月18日 8月19日 8月20日 8月23日 8月24日	・救急法講習	58	54	93
8月	・メンタルヘルスについて ・プライバシー保護について ・苦情について ・危険予知トレーニング	56	54	96
9月	・法令遵守について ・個人情報保護について ・高齢者、障害者虐待防止について	―	―	―
10月	・感染症予防と吐物処理について ・緊急時の事故対応について ・危険予知トレーニング	56	56	100
11月	・看取り介護について ・身体拘束について ・危険予知トレーニング	56	56	100
12月	・事故事例検討、事故検証について ・危険予知トレーニング	56	36	64
1月	・褥瘡ケアについて ・危険予知トレーニング	56	47	84
3月	・医療的ケアについて	56	56	100

※9 月は法人合同で実施する予定であったが、感染症予防のため中止した。
とこなみと合同で開催したため、対象職員数、参加者数、出席率は〃数値となります。

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

・コロナ禍で研修の在り方も変わり、Web 研修会が主流となった。その中で、新型コロナウイルス感染症防止のための研修や介護力向上研修等も Web で参加し、技術の習得に努めた。

・障害者福祉事業においても、知識の習得や事例検討などの実践的な研修に参加した。

② 内部研修

・新型コロナウイルス感染症防止のため、集合研修は行わず、資料配付や動画視聴の研修を取り入れた。また研修内容に沿った問題を出題し回答の提出を以って参加とみなした。

7 ほっとサポートとこなみ ボランティア活動状況

※新型コロナウィルス感染症予防対策のためボランティアの受け入れを中止した。

8 ほっとサポートとこなみ　災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓　練　内　容	参加者数
11 月 11 日	〈とこなみ就労 B 型〉 日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後消火訓練を行った。	3 名 (職員)
11 月 15 日	〈とこなみ〉 日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後消火訓練を行った。	10 名 (職員)
11 月 22 日	〈たいよう〉 日中を想定した避難訓練を行った。	1 名 (職員)
11 月 29 日	〈あかり〉 日中を想定した避難訓練を行った。	1 名 (職員)
3 月 17 日	〈とこなみ就労 B 型〉 日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後消火訓練を行った。	3 名 (職員)
3 月 23 日	〈とこなみ〉 日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後消火訓練を行った。	10 名 (職員)
3 月 26 日	〈たいよう・あかり〉 日中を想定した避難訓練を行った。	2 名 (職員)

2. 消防設備点検

開催月日	訓　練　内　容
6 月 4 日	〈とこなみ・たいよう・あかり〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12 月 8 日	〈とこなみ・あかり・たいよう〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

9 とこなみ 苦情受付・対応報告

苦　　情

＜就労継続支援Ｂ型＞

1. 地域の方より

国道 49 号線を新潟方面へ向かって運転しているところ、津川トンネルの手前で 2 台の車が路肩に駐車していた。1 台が発進し、2 台目もウインカーを出し発進した。ウインカーを出していたので発進することはわかっていたが、2 台目の車と接触しそうになった。2 台目の車は割り込んできたように感じた。

今後の対策や謝罪等は必要ないが、運転には十分気を付けるようにして欲しいとのことだった。

・連絡を受けた際、謝罪と今後気を付ける事を伝えた。
・運転していた職員への状況確認と職員全体に対して運転についての注意喚起を行った。

＜要因:その他＞

苦情の発生件数

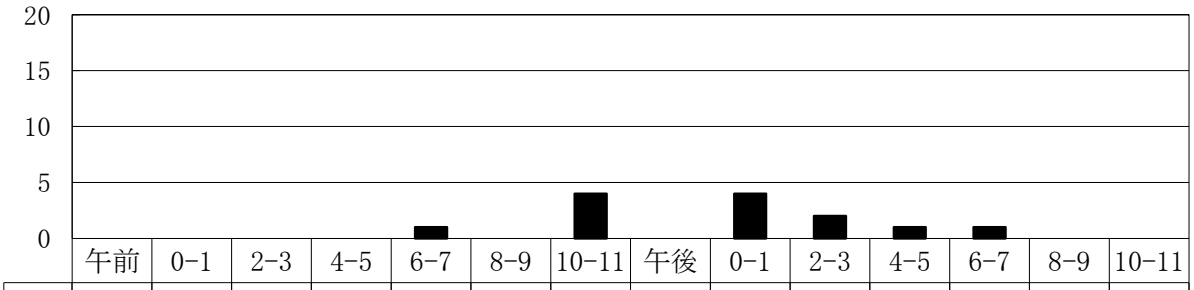
事　　業	件数
共同生活援助	0 件
短期入所	0 件
生活介護	0 件
就労継続支援Ｂ型	1 件
放課後等デイサービス	0 件
合　　計	1 件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0 件
職員の態度	0 件
サービスの質	0 件
サービスの量	0 件
権利侵害	0 件
その他	1 件
合　　計	1 件

10 とこなみ 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



	午前	0-1	2-3	4-5	6-7	8-9	10-11	午後	0-1	2-3	4-5	6-7	8-9	10-11
件数		0	0	0	1	0	4		4	2	1	1	0	0

〈発生件数合計 13 件〉

2. 場所別発生件数

発 生 場 所	件 数
居室	0 件
食堂･デイルーム	2 件
トイレ	0 件
廊下･玄関	0 件
浴室	0 件
施設外	1 件
その他	10 件
合計	13 件

3. 内容別発生件数

事 故 内 容	件 数	阿賀町へ報告
転倒･転落	0 件	
裂傷･火傷	0 件	
打撲･皮下出血	1 件	
破損	0 件	
私物紛失	0 件	
無断外出	2 件	1 件
異食･誤飲	0 件	
誤薬	1 件	1 件
異食･誤飲	0 件	
車輌事故	0 件	
その他	9 件	
合計	13 件	2 件

4．事故報告

・新しく事業が始まったこともあり事故件数が増えている。
就労継続支援 B 型は施設内だけでなく、外部へ出て作業を行うため、利用者の状態の把握と、事故を未然に防げる様、危険予知トレーニングをしっかり行っていきます。